

科目名	聖隷の理念と歴史
科目責任者	入江 拓
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	「天地の間にこの子の五尺の体を入れてやるところがない」。結核が日本中に蔓延していた昭和のはじめ、行くところを失った一人の青年を連れた老人のこの言葉が聖隷の働きのはじめにありました。本科目では、聖隷にさまざまな形で関わってきた方々により、聖隷から何を学び・感じたのか、また何を継承していくべきなのかをお話いただき、本学の重要な構成員である学生一人ひとりが聖隷の理念と働きを理解する機会とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教精神を基盤とした「生命の尊厳と隣人愛」について理解し、自分の言葉で説明ができる。 2. 「聖隷」の言葉の意味、聖隷のはじまりを自分の言葉で他の人に伝えることができる。 3. 聖隷の理念の表明としての聖隷グループの各法人の活動を知り、その働きの広がりについて自分の言葉で説明ができる。 4. 自らが聖隷クリストファー大学で学ぶ意味を考え、表現することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>各学部担当教員：入江拓（看護）、大田雅子（社福）、田中真希（リハ）</p> <p>第1回：聖隷との出会い：オリエンテーション 入江拓（看護学部教授）</p> <p>第2回：聖隷の創立者たちの生きざま 長谷川了（学校法人聖隷学園理事長）</p> <p>第3回：聖隷から教えられたこと 藤本栄子（看護学部長）</p> <p>聖隷の実践は介護から始まった 横尾恵美子（社会福祉学部長）</p> <p>第4回：聖隷の教育が目指すもの 大城昌平（本学学長）</p> <p>聖隷の理念とリハビリテーション 新宮尚人（リハビリテーション学部長）</p> <p>第5回：十字の園の歴史とディアコニッセ 平井章（社会福祉法人十字の園理事長）</p> <p>第6回：聖隷の理念と看護 大手歌子（元聖隷三方原病院総看護部長）</p> <p>第7回：聖隷のはたらきとこどもたち 内藤かず子（聖隷こども園めぐみ園長）</p> <p>第8回：看護学生時代の私から見た人間長谷川保 入江拓（看護学部教授）</p> <p>第9回：小さい者の一人を大切にする社会を 稲松義人（社会福祉法人小羊学園理事長）</p> <p>第10回：聖隷リハビリの使命と活動 言語聴覚士として培ったこと 柴本勇（リハビリテーション学部言語聴覚学科教授）</p> <p>聖隷リハビリの使命と活動 理学療法士の視点から 根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科准教授）</p> <p>第11回：牧ノ原やまばと学園のはたらき 長沢道子（社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長）</p> <p>第12回：神戸聖隷福祉事業団のはたらき 西郷昌一（神戸聖隷福祉事業団 聖生園 施設長）</p> <p>第13回：聖隷で教えてもらった“人と関わる”ということ 柴田恵子（看護師・助産師・本学卒業生）</p> <p>第14回：世界に広がる聖隷の働き（インドブラジル） 山本誠（聖隷福祉事業団 法人本部次長）</p> <p>第15回：聖隷の働きと教会 森田 恭一郎（河内長野教会牧師）</p> <p>※春semesterと秋semesterで順番は異なります。</p>

アクティブ ラーニング	<p>本学ならではのユニークな科目です。聖隷の実践の積み重ねとそれに関わった人たちの生きざまから直接多くのことを感じ学んでください。感受性豊かな若い時に、自分が所属する集団によって立つところの理念への理解を深め、その歴史から学ぶことは、今後の学びや将来の専門職としてのビジョンのみならず、生き方や人との出会い方に少なからず影響を及ぼすものです。聖隷歴史資料館(5号館1階)の見学とレポート課題を必須とします。講師の先生方の話を聞き、積極的に聖隷歴史資料館を事前事後学習として複数回活用して、感じたこと考えたことをレポートに反映させてください。</p>
評価方法	<p>授業への取り組み状況 30% (出席状況は学則に基づく成績評価の大前提です)、レポート 50%、歴史資料館感想カード 20%</p>
課題に対する フィード バック	<p>その都度の質問、意見をリアクションペーパーやメールで頂ければ、可能な限りお返事いたします。</p>
指定図書	<p>大学指定の「聖隷事業の理念と歴史」テキスト</p>
参考図書	<p>長谷川保『夜もひるのように輝く』講談社 長谷川保『神よ私の杯は溢れます』ミネルバ書房</p>
事前・ 事後学修	<p>聖隷で学ぶ学生として、また本学の大事な構成員として、聖隷歴史資料館の見学を義務付けています。図書館にある聖隷関係の関連図書で興味を惹かれるものを1冊は読み、聖隷の理念に関する理解を深め、上記レポート及び感想カードに反映させてください。目安時間 40分。</p>
オフィス アワー	<p>本講義はキリスト教の信仰を強要するものではありません。安心して自分を振り返り、永遠なるものに目を向ける時としてください。入江研究室は 3403 (taku-i@seirei.ac.jp)、太田研究室 (masako-o@seirei.ac.jp)、田中研究室 (maki-t@seirei.ac.jp) です。あらかじめメールでアポイントをとっての来訪や、在室している場合の来訪はいつでも歓迎いたします。</p>

科目名	キリスト教概論
科目責任者	永井 英司
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	キリスト教に初めて接する人がほとんどではないかと思います。15回の授業を通して旧、新約聖書を概観し、中心的な教えを学びます。聖書を用いながら授業を進めますので、聖書は必ず持参して下さい。指定図書の『キリストの教え』も適宜引用しながら進めます。信仰の自由、人権思想、生命の尊厳など近代思想が聖書の教えから出発していることを学びます。
到達目標	1. キリスト教「聖書」全般の基礎知識を習得する。 2. キリスト教「聖書」の重要な教えを習得する。 3. 建学の精神の意味、また大学礼拝に臨む意義を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 聖書について 課題レポート等々について、 正典としての聖書 礼拝 神と人間 イエス・キリスト他</p> <p>第2回：旧約聖書の理解のために 創造物語について</p> <p>第3回：旧約聖書の理解のために 神話的な物語について</p> <p>第4回：律法の教えから 十戒 レビ記 申命記 詩編 箴言 コヘレトの言葉から</p> <p>第5回：旧約聖書が語る歴史から ヨセフ物語 モーセとアロン 罪と救いの待望 について</p> <p>第6回：旧約聖書のメシア預言について マラキ書から福音書へ</p> <p>第7回：新約聖書の理解のために イエス・キリストの生涯について</p> <p>第8回：使徒言行録とパウロについて 12弟子とパウロの働き</p> <p>第9回：イエスの奇跡物語と譬え話から (1) 「山上の説教」等について</p> <p>第10回：イエスの奇跡物語と譬え話から (2) 「善いサマリヤ人」等について</p> <p>第11回：イエスの十字架刑をめぐって (1) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ福音書から</p> <p>第12回：イエスの十字架刑をめぐって (2) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ福音書から</p> <p>第13回：旧約聖書と新約聖書の関係について 預言と成就について</p> <p>第14回：隣人愛について ヨハネ福音書13：1～20節を中心に</p> <p>第15回：授業の振り返りとまとめ</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	1. 「キリスト教概論」の受講者は大学礼拝への出席が義務となります。 2. 『夜も昼のように輝く』読書感想レポート (25%)、課題レポート (25%) と定期試験 (50%) 再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『夜も昼のように輝く』長谷川保著・聖隷学園 『キリストの教え』鈴木崇巨著・春秋社
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	聖書の通読 大学礼拝への出席 キリスト教関連の文献や辞書の活用。目安時間 40 分。
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。

科目名	キリスト教人間論
科目責任者	永井 英司
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 春・秋 2019 年度開講
科目の位置付	DP(1) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	<p>聖書は人間をどのように捉えているのであろうか。人間は被造物の一つではあるが、神の姿に似せて創造され、生ける存在である。人間が原罪をもって生まれ、多くの問題と弱さを持っている。しかし、互いが人格を尊重し合い、助け合って生きていくように定められている。</p> <p>聖書の人間理解を学び、医療・保健・福祉の分野で働こうとしている人々が持つべき人権擁護の考え方、社会正義、個人の責任、自主性や協調性などを学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書が教える「人間」についての一般的知識を習得する。 2. 聖書が教える人間の尊厳、生命の尊厳について習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：人間論とはなにか 創世記第 1 章～ 3 章について</p> <p>第 2 回：創世記第 1 ～ 3 章に記されている人間の特性（1） 人間の被造性 神の似姿の意味 普遍的平等性 随罪 有限性</p> <p>第 3 回：創世記第 1 章～ 3 章に記されている人間の特性（2） 人間の罪について 人間は助け合って生きる存在 聖書に見る障がい者や高齢者への言及</p> <p>第 4 回：イエス・キリストの人間理解について 神を愛することが第一で隣人愛は第二 小さき者への愛 ジェンダーを超えた愛、差別のない人間理解 アンスローポス ホモファーベル ホモサピエンス</p> <p>第 5 回：パウロの人間理解について イエスの教えの実践者 信仰と実践 人間の問題は罪と死 理性と良心 邂逅 回心 コペルニクス転回 パラダイムシフト</p> <p>第 6 回：人間は一人では生きていけない 男女、家庭、夫婦、親子、VIP、我と汝 神の宝の民 倫理の第一原則 ヨハネ 13：1～ 福祉の第一原則 レビ記 23：22 他</p> <p>第 7 回：神の賜物について アガペー タラントシ 人格の尊厳</p> <p>第 8 回：人間その弱い者への配慮について 愛は痛みを伴う 愛は種類ではなく質 ヘレニズムとヘブライズムの視点 汎神論 偶像礼拝</p> <p>*授業はキリスト教概論の既修を前提に進めていきます。</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	論述式のテスト（100％）で評価する。 再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	キリスト教関連の文献や辞書の活用 聖書の通読 大学礼拝への出席。目安時間 40 分。
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。

科目名	キリスト教の歴史
科目責任者	永井 英司
単位数他	1単位 (15時間) 選択 春・秋 2020年度開講
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	講義ではキリスト教の歴史を概観します。キリスト教の始まりから現在の世界のキリスト教までの歴史の流れを概観することにより、キリスト教の系統的理解を試みます。
到達目標	1. キリスト教の歴史を習得する。 2. キリスト教主義大学である本学の基本的理念：隣人愛を学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：導入：キリスト教について 律法の宗教から愛（恵み）の宗教へ</p> <p>第2回：「われらの父祖アブラハム」 キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の神は同じ神なのか 使徒言行録11：26 キリスト者と呼ばれるように</p> <p>第3回：キリスト教の発展について（その1） イエスの12弟子と使徒パウロの宣教活動 マタイ16：18～わたしの教会を建てる 使徒言行録2：41～8：1仲間からエルサレム教会へ 迫害からローマ帝国の国教へ コンスタンティヌス大帝の役割</p> <p>第4回：キリスト教の発展について（その2） 聖書の誕生：正典化について 二つの「正統的な教会」 ヨーロッパのキリスト教化 教皇グレゴリウス一世と国王カール一世</p> <p>第5回：中世のキリスト教と宗教改革について マルチン・ルター ジャン・カルヴァン</p> <p>第6回：イギリスからアメリカへ渡るキリスト教 イギリス国教会とピューリタン ピューリタンと新世界アメリカ・・・そして日本へ</p> <p>第7回：日本とキリスト教について キリスト教伝来とキリシタン 聖隷クリストファー大学の礎にあるもの</p> <p>第8回：現代世界とキリスト教 多様なキリスト教の教派 世界の宗教人口 今日の課題</p> <p>*授業は世界史およびキリスト教概論の既修を前提に進めていきます。</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	課題レポートの提出（100％）によって評価する。再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『キリスト教の歴史』小田垣雅也 講談社学術文庫
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	キリスト教関連の文献や辞書の活用 聖書の通読 大学礼拝への出席。目安時間 40 分。
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。

科目名	キリスト教倫理
科目責任者	永井 英司
単位数他	1単位（15時間） 選択 春・秋 2018年度開講
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	キリスト教倫理の基礎的な講義です。医療福祉に携わる者として、現代社会のさまざまな問題をどのように考えていったらよいのか、基礎的な考え方を聖書の教えから学びます。講義は聖書を引用しながら進めます。
到達目標	1. キリスト教倫理の基礎知識を習得する。 2. 自分で倫理的な判断ができる人になる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：キリスト教倫理とは何か（1） 導入：キリスト教と倫理の関係 変化する社会と規範としての聖書 世界終末時計</p> <p>第2回：キリスト教倫理とは何か（2） Q. O. L 「何事にも時がある」コヘレト3：1～ 究極的関心事</p> <p>第3回：生命倫理に関する聖書の教えについて（1） 聖書は命をどう見ているか 「命と血について」レビ17：10～</p> <p>第4回：生命倫理に関する聖書の教えについて（2） 人間の有限性 墮罪 死について 「善は行わず悪を行っている」ローマ7：19～ カインとアベル</p> <p>第5回：創造物語に描かれた世界について 天地創造物語について 神から「支配」をゆだねられた人間 我と汝 神への応答と責任</p> <p>第6回：人間について イマゴデイ ホモサピエンス ホモファールベル ホモルーデンス ホモポリティコン ホモストウルトゥス ホモパティエンス 「白く塗った墓」マタイ23：27</p> <p>第7回：結婚に関する聖書の教えについて アガペーとエロース アポーションの問題</p> <p>第8回：現代社会の新しい問題に立ち向かって 終末と希望 死の克服 メメントモリ シャーローム 「新しく生きる」IIコリント5：17 ネオスとカイノス 「愛の模範」ヨハネ13：15、Iペトロ2：21 *授業はキリスト教概論の既修を前提に進めていきます。</p>

アクティブラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	論述式のテスト（100%）によって評価する。再試験は実施しない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・事後学修	キリスト教関連の文献や辞書の活用 聖書の通読 大学礼拝への出席。目安時間 40 分。
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。

科目名	英語 I	※総合英語
科目責任者	渥美 陽子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 看護学部必修・リハビリテーション学部必修 1 セメスター	
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。	
科目概要	<p>日常的な話題に関する基礎的な英語運用能力を養うため、タスク型のコミュニケーション活動を中心とした授業を展開する。授業は基本的に英語で行い、「聞く、話す、書く、読む」の 4 技能をバランスよく向上させる。視聴覚教材を積極的に活用しつつ、実践的な読解能力も養う。毎回の授業時に教科書と並行して多読活動に取り組む。個々のレベルに合わせて継続的に読解訓練を行い、「英文を読む」、「読めるようになる」楽しさを体験する。自律した英語学修者の養成を目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初級クラスでは、基本的な英語の語彙と文章構造を理解し、日常的な内容について話された／書かれた文章を英語のまま理解し、簡単な質問に答えることができる。内容に沿った質問をすることができる。ロールプレイをスムーズに行うことができる。 2. 中級以上のクラスでは TOEIC の教材を活用し、より実用的で幅広い英語運用能力の修得を目指す。様々な意見、立場、価値観の違いを考慮した上で、適切な質問を投げかけ、自分の意見を簡潔に伝えることができる。TOEIC500 点以上の取得を目指す。 3. 個々の学修者に合わせた多読活動を実施し、レベルごとに設定する語数の達成を目指す。 	
授業計画	<p><担当教員名> マクリーン・リチャード、パターソン・ドナルド、渥美陽子、アントン・ウィリアム、他</p> <p>※以下は B クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。</p> <p>第 1 回：プレイスメントテスト 第 2 回：Restaurant 第 3 回：Entertainment 第 4 回：Business 第 5 回：Office 第 6 回：Telephone 第 7 回：Letter & E-mail 第 8 回：まとめ、中間テスト 第 9 回：Health 第 10 回：Bank & Post Office 第 11 回：New Product 第 12 回：Travel 1 第 13 回：Travel 2 第 14 回：Job Offer 第 15 回：まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	各クラスレベルに合わせたタスク型を中心とした学生主体のコミュニケーション活動（ペアワーク・グループワークを含む）、多読活動とその記録・管理、Moodle の活用
評価方法	プレイスメントテスト 10%、小テスト 20%、課題 10%、中間試験 30%、期末試験 30% なお、TOEIC IP 受験者には、試験結果によって加算点を与える（ただし、受験希望者が少ない時は TOEIC IP が実施できない場合もある）。
課題に対する フィード バック	小テスト・課題・中間／期末試験、および多読ポートフォリオに対するコメント、学生同士のフィードバック等
指定図書	指定図書 A~D クラス = 『Best Practice for the TOEIC Test』 (Seibido) E, F クラス = 『Let' s Read Aloud More!』 (Seibido)
参考図書	
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解して不明な点を明確にした上で授業に臨む。会話のリズムに慣れるため、CD を活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習等を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分~1 時間、事後学修 30 分~1 時間程度。
オフィス アワー	マクリーン・リチャード：火曜日 3-5 時限目、木曜日 3-4 時限目 パターソン・ドナルド：火曜日 11:00-13:00、金曜日 12:00-14:00 渥美陽子：火曜日 12:00-17:00、金曜日 12:00-14:00

科目名	英語 I	※総合英語
科目責任者	渥美 陽子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 社会福祉学部必修 2 セメスター	
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。	
科目概要	<p>日常的な話題に関する基礎的な英語運用能力を養うため、タスク型のコミュニケーション活動を中心とした授業を展開する。授業は基本的に英語で行い、「聞く、話す、書く、読む」の 4 技能をバランスよく向上させる。視聴覚教材を積極的に活用しつつ、実践的な読解能力も養う。毎回の授業時に教科書と並行して多読活動に取り組む。個々のレベルに合わせて継続的に読解訓練を行い、「英文を読む」、「読めるようになる」楽しさを体験する。自律した英語学修者の養成を目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初級クラスでは、基本的な英語の語彙と文章構造を理解し、日常的な内容について話された／書かれた文章を英語のまま理解し、簡単な質問に答えることができる。内容に沿った質問をすることができる。ロールプレイをスムーズに行うことができる。 2. 中級以上のクラスでは TOEIC の教材を活用し、より実用的で幅広い英語運用能力の修得を目指す。様々な意見、立場、価値観の違いを考慮した上で、適切な質問を投げかけ、自分の意見を簡潔に伝えることができる。TOEIC500 点以上の取得を目指す。 3. 個々の学修者に合わせた多読活動を実施し、レベルごとに設定する語数の達成を目指す。 	
授業計画	<p><担当教員名> マクリーン・リチャード、渥美陽子、他</p> <p>※以下は A クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。</p> <p>第 1 回：プレイスメントテスト 第 2 回：Restaurant 第 3 回：Entertainment 第 4 回：Business 第 5 回：Office 第 6 回：Telephone 第 7 回：Letter & E-mail 第 8 回：まとめ、中間テスト 第 9 回：Health 第 10 回：Bank & Post Office 第 11 回：New Product 第 12 回：Travel 1 第 13 回：Travel 2 第 14 回：Job Offer 第 15 回：まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	各クラスレベルに合わせたタスク型を中心とした学生主体のコミュニケーション活動（ペアワーク・グループワークを含む）、多読活動とその記録・管理、Moodle の活用
評価方法	プレイスメントテスト 10%、小テスト 20%、課題 10%、中間試験 30%、期末試験 30% なお、TOEIC IP 受験者には、試験結果によって加算点を与える（ただし、受験希望者が少ない時は TOEIC IP が実施できない場合もある）。
課題に対する フィード バック	小テスト・課題・中間／期末試験、および多読ポートフォリオに対するコメント、学生同士のフィードバック
指定図書	指定図書 A, B クラス＝『Best Practice for the TOEIC Test』（Seibido） C, D クラス＝『Let' s Read Aloud More!』（Seibido）
参考図書	
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解して不明な点を明確にした上で授業に臨む。会話のリズムに慣れるため、CD を活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習等を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オフィス アワー	マクリーン・リチャード：火曜日 3-5 時限目、木曜日 3-4 時限目 渥美陽子：火曜日 12:00-17:00、金曜日 12:00-14:00

科目名	英語ⅡA	※Speaking
科目責任者	パターソン・ドナルド	
単位数他	1単位(30時間) 選択 春・秋	
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。	
科目概要	<p>English IIA is a course in speaking and listening skills for lower to intermediate level students, with a focus on interactions common to foreign travel, such as airport check-in, currency exchange, and asking for directions. The course is recommended to students who are planning to join one of Seirei Christopher University's international exchange programs or English language courses abroad.</p> <p>本授業は外国人講師による英会話の授業です(初中級者向け)。特に海外旅行の際に遭遇する様々な場面で活用できる英語表現を学びます。海外研修・実習、および海外英語研修へ参加を希望する学生には特に履修を勧めます。</p>	
到達目標	<p>Upon successful completion of the course, students are expected to be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listen for grammatical and discourse cues in order to retrieve content. 2. Identify and deploy a variety of speech acts (e.g. requesting, suggesting, clearing a misunderstanding). 3. Use a variety of communication strategies. <ol style="list-style-type: none"> 1. リスニングのポイントとルールを学ぶ。 2. リクエストや提案の仕方、誤解が生じた際の交渉方法などを学ぶ。 3. 英語によるコミュニケーションの技術を学ぶ。 	
授業計画	<p><担当教員名> アントン・ウィリアム/ギブ・ショーン/パターソン・ドナルド</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回: Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する)</p> <p>第2回: Unit 1: Did you pack this bag yourself?</p> <p>第3回: Unit 2: Can I pay in yen?</p> <p>第4回: Unit 3: Which platform do I need?</p> <p>第5回: Unit 4: I'd like a ham sandwich, please.</p> <p>第6回: Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト)</p> <p>第7回: Unit 5: Do you have room for tonight?</p> <p>第8回: Unit 6: Can I use my card in this ATM?</p> <p>第9回: Unit 7: I have a sunburn.</p> <p>第10回: Unit 8: Do you have anything cheaper?</p> <p>第11回: Review, Mid-term Test (まとめ、中間テスト)</p> <p>第12回: Group Work (グループワーク)</p> <p>第13回: Group Work (グループワーク)</p> <p>第14回: Group Presentation (グループ発表)</p> <p>第15回: Wrap up (まとめ)</p>	

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Moodle activities ・グループ学修、ロールプレイング、Moodle の活用
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 10%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 30%; Final Test: 30% クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト10%、発表 20%、中間テスト 30%、最終テスト 30%
課題に対する フィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	“Passport to New Places: English for International Communication” (Oxford University Press)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Moodle segment, Paper reports. About 40 minutes per week. Moodle によるリスニング課題、レポート。目安時間 40 分。
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 5704 です。時間については授業時に提示します。

科目名	英語 IIB
科目責任者	MacLean, Richard (マックリン・リチャード)
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>日常的な英語コミュニケーションに必要なEメールでの表現方法や、手紙などに用いられる文章表現等、実用的な英語表現の基礎を学ぶ。</p> <p>海外研修等に参加する際に必要な申請書、自己紹介文、礼状等の書き方、およびSNS等で海外在住の人に向けて英語でメッセージを送る際に用いる、実用的な英語表現を学ぶ。</p>
到達目標	<p><u>※到達目標、および授業計画はクラス・担当者によって異なる。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 友人に対して、分かりやすい内容でEメールやFacebook等で挨拶文が書ける。 2. 推薦状、および自己紹介文が書ける。 3. 専門分野での英文ライティングに関する基礎知識を養う 4. パラグラフの構成について理解し、実際に書く事ができる 5. 創造的な文章、および日常的な内容の英文でコミュニケーションを取ることができる
授業計画	<p>担当教員名：渥美陽子、マックリン・リチャード、アントン・ウイリアム、平野美津子、土江綾 <授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： 履修説明、Self-Introduction Letter</p> <p>第2回： Introduction to Writing Structure</p> <p>第3回： Writing Project I (e.g. Group Interpretation and Story Telling)</p> <p>第4回： Introduction to Memo Format</p> <p>第5回： Requesting Advice</p> <p>第6回： Introduction to Reference Letter</p> <p>第7回： Peer Critique of Reference Letter, Paragraph Development</p> <p>第8回： まとめ 中間テスト</p> <p>第9回： Writing Project II (e.g. Story Structure)</p> <p>第10回： Advice Request Letter</p> <p>第11回： Paragraph Logic: Advance Development</p> <p>第12回： Peer Review of Request Letter</p> <p>第13回： Writing Project III (e.g. Advanced Story Development)</p> <p>第14回： Peer Review of Writing Project III</p> <p>第15回： Wrap up</p>

アクティブ ラーニング	ピアライティング、プレゼンテーション、グループでの振り返り、コメント
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）と小テスト（20%）、課題提出（20%）、中間30%、定期テスト30%
課題に対する フィード バック	グループでの振り返り、フィードバック、一斉指導、グループ内での修正、ピアレビュー
指定図書	Write Me Back Soon! Communicating through Email （金星堂）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	予習・復習、課題を行う。目安40分。
オフィス アワー	TBD and posted.

科目名	スペイン語
科目責任者	櫻井 里香
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>スペイン語は 20 か国以上の国と地域の公用語であり、国連公用語としても使用されている。日本国内でも多くの分野で必要とされている。本講義では、スペイン語の特徴、基礎文法と、日常表現の習得に加え、スペイン、ラテンアメリカ世界の文化にふれ、それら地域への知識と関心を高めること、日系人労働者など、現代日本との関わりでとらえることを目的とする。</p> <p>授業では、日常のボキャブラリーと表現を覚えながら、会話練習などでコミュニケーション能力を養う。必要に応じて英語・日本語など他の言語とスペイン語を比較することで理解を深める。また、DVD や音楽の視聴、最新のニュースや話題をとり入れながら、スペイン語圏の文化への関心を高めていく。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スペイン語の特徴、基本的な仕組みを理解し、受講後の学習継続の基礎を身につける。 2. 挨拶や日常表現、および数字を習得する。 3. 参考書類、辞書の基本的な使い方の知識を得る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：学習についてのガイダンス、アルファベットと発音</p> <p>第 2 回：主格人称代名詞と動詞 ser (英語の be 動詞)</p> <p>第 3 回：否定文と疑問文、職業名、国名と「～国人」</p> <p>第 4 回：名詞の性 (男性形・女性形)、名詞の数 (単数形・複数形)</p> <p>第 5 回：定冠詞と不定冠詞・形容詞</p> <p>第 6 回：「もう一つの be 動詞」 estar</p> <p>第 7 回：「be 動詞」 ser と estar の違い</p> <p>第 8 回：時刻の表現、曜日と日付の表現</p> <p>第 9 回：直説法現在形・規則活用 (1) 活用と用法</p> <p>第 10 回：直説法現在形・規則活用 (2) 練習問題</p> <p>第 11 回：直説法現在形・語幹母音変化動詞</p> <p>第 12 回：直説法現在形・不規則動詞(1)活用と用法</p> <p>第 13 回：直説法現在形・不規則動詞(2)、重要な動詞 querer と poder</p> <p>第 14 回：重要な動詞 tener、人称代名詞：直接目的語「～を」と間接目的語「～に」</p> <p>第 15 回：gustar 型の動詞、「スペイン語」のまとめと質問</p>

アクティブ ラーニング	2、3人のグループで質疑応答や会話の練習を行ったり、テキストに掲載の会話に関し、役割練習を行ったりすることがある。
評価方法	評価は授業への参加状況と課題、小テスト、定期試験により行う。 割合としては、授業への参加度が10%、課題、小テストが20%、定期試験が70%である。定期試験は、テキストを中心に、その他授業中に学習する文や表現から出題する。 発音練習、会話など、授業には積極的に参加すること。
課題に対する フィード バック	小(中間)テストを実施した際にはその解説、提出物やリアクションペーパーにはコメント・模範解答提示と解説を行う。
指定図書	『世界につながるスペイン語』 イグナシオ アリスティムニョ・稲本健二・久野聖子他著、朝日出版社 参考書として、『プログレッシブスペイン語辞典』小学館 また、重要事項に関するコピー資料などを配布する。辞書を持参すること。
参考図書	
事前・ 事後学修	授業中に配布するプリントは、テキストの説明を補足し、例文の意味を確認するためのものなので、プリントとテキストを合わせながら、毎回事前・事後学習をすることが望ましい。特に、授業後の早いうちに、ポイントを見直すこと。理解できないことがあった場合、可能な限り時間をおかず質問すること。目安時間40分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	ポルトガル語
科目責任者	高阪 香津美
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本授業では、浜松市に数多く暮らすブラジル人住民の母語であるポルトガル語を学習します。そして、ブラジル人住民が日常生活を送る上でコミュニケーションに困難を抱えないよう、ブラジル人住民と遭遇することが想定される様々な場面が必要とされる基本的なポルトガル語の語彙や表現を身につけることをねらいとします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活上の様々な場面で外国人住民が抱える言葉の問題について理解すること。 2. 日本でポルトガル語を学習することの意義について意識すること。 3. 言語だけでなく、ブラジルの文化的側面についても把握すること。 4. ポルトガル語の基本的な文法知識を身につけ、簡単な意思疎通ができること。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：授業の進め方、評価に関する説明、浜松市に暮らす外国人住民の数、日本に暮らすブラジル人住民を取り巻く現状と課題、ポルトガル語を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回：ポルトガル語の基本的なあいさつ表現を学習する。その後、学習したあいさつ表現を自由に組み合わせて文を作り、ペアワークで実践練習を行う。</p> <p>第3回：ポルトガル語によるアルファベットの読み方、名前の尋ね方とその答え方をペアワークを通して学ぶ。ブラジル文化として、ブラジル人に多い名前を知る。</p> <p>第4回：ポルトガル語特有の発音のルール、単語を読む際のアクセントの位置を学ぶ。</p> <p>第5回：これまでに学習した内容の<u>小テスト</u>を実施する。ブラジルで有名な歌の歌詞を声に出して読むことで、発音の仕方とアクセントの位置の定着をはかる。</p> <p>第6回：前回の小テストの返却と解説、ser 動詞の活用と用法、職業、出身、国籍、婚姻関係の尋ね方とその答え方を学ぶ。その後、学習した ser 動詞を用い、簡単な自己紹介を考え、ペアワークで実践練習を行う。</p> <p>第7回：前回学習した ser 動詞の活用と用法を復習するとともに、人を表す基本的な形容詞、指示詞、所有詞、親族名称を学び、ペアワークで自分の家族や友人を紹介する実践練習を行う。</p> <p>第8回：ser 動詞の活用と用法、主語と補語の性と数の一致というポルトガル語特有のルールを練習問題を解きながら徹底的に復習する。</p> <p>第9回：基本的な一般動詞 gostar を学び、好きなこと、好きなものを言う練習を行う。これまでに学習したことのまとめとして、自分の友人や家族（ペット含む）をポルトガル語で紹介する文を作り、ペアワークで発表する。</p> <p>第10回：前回の小テスト以降に学習した内容の<u>小テスト</u>を実施する。日本にあるブラジル人学校のDVDを見ながら、日本に暮らすブラジル人の子どものための教育課題について学ぶ。</p> <p>第11回：前回の小テストの返却と解説、数字（0～50）、日付、誕生日、年齢の尋ね方とその答え方を学び、ペアワークで実践練習を行う。また、ブラジル文化として、映像を通してブラジルの誕生日の祝い方を知る。</p> <p>第12回：曜日、時刻、電話番号の尋ね方とその答え方について学ぶ。リスニング問題や練習問題を通して、理解の定着をはかる。ブラジル文化として、ブラジル人の書く独特な文字や割り算のひっ算の方法の違いを知る。</p> <p>第13回：estar 動詞を学び、自分や身の回りの人々の体や心の状態について言えるようにする。</p> <p>第14回：前回の小テスト以降に学習した内容の<u>小テスト</u>を実施する。医療・介護現場における医療通訳の必要性和やさしい日本語の概念について学ぶ。</p> <p>第15回：前回の小テストの返却と解説、今学期学習したことの総復習を行う。</p>

アクティブ ラーニング	ペアワーク
評価方法	小テスト 50% (計 3 回)、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	小テストの返却、解説
指定図書	なし
参考図書	兼安シルビア典子 (2014) 『Descobrimos o Brasil ブラジルを発見!』 同学社
事前・ 事後学修	事前学修 (15 分) : 次回、授業で取り上げる学習内容を読み、理解を試みる。わからないところがあれば、何がわからないのかが自分でわかるようにしておくこと。 事後学修 (25 分) : 授業で扱った学習内容に関する課題を行うことを通し、理解の定着をはかること。授業の中に出てきたポルトガル語の単語、文が発音できるように、何度も繰り返し声に出して練習すること。また、授業で習ったポルトガル語の単語、文が書けるように、何度も書いて練習すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	中国語
科目責任者	方 健
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	中国語を始めて学ぶ人を対象として、中国語の基本語彙、文法を勉強しながら、実際にも応用できるように日常会話を繰り返し練習する。学生同士間に中国語を使って会話する授業も行う。また中国人のものの考え方を紹介して、中国の文化を理解する上に中国語の表現方法を習得する。
到達目標	1. 挨拶言葉を言える。 2. 自己紹介ができる。 3. 中国語で簡単な日常会話ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：単母音、声調（四声）を繰り返して発音して、中国語の発音の特徴を把握する。</p> <p>第2回：複母音（二重母音、三重母音）、鼻母音の発音を練習して覚える。</p> <p>第3回：子音の発音を練習して、無気音と有気音の違いが聞き取れるようにする。</p> <p>第4回：初対面の挨拶、自己紹介ができるようにする。</p> <p>第5回：判断文を使って、物の名前や人の名前を聞いて、簡単な会話を練習する。</p> <p>第6回：動詞文の作り方を把握して、よく使っている動詞の語彙を覚える。</p> <p>第7回：動詞を使う日常会話を作って、その日常会話を言える、また聞き取れるようにする。</p> <p>第8回：百以下の数の数え方と時間詞（年、月、日、曜日、時）を覚える。</p> <p>第9回：時間詞の使い方を把握して、時間の尋ね方を覚える。</p> <p>第10回：存在動詞<有>を使って、家族を紹介します。</p> <p>第11回：存在動詞<在>を使って、人や物の場所を尋ねる。</p> <p>第12回：動詞の進行形を使って、会話文を作る。</p> <p>第13回：前置詞を使って、活動範囲を表現する。</p> <p>第14回：大きい数の数え方とお金の言い方を覚えて、買い物ができるようにする。</p> <p>第15回：まとめ、中国語の旅</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	小テスト（13回）の成績を50%、定期試験の成績を50%の割合で、成績を評価する。
課題に対する フィード バック	小テストの回答について、解説をし、また間違った回答を書面で解説してから返す。
指定図書	『すぐに使えるカンタン中国語』 宮本大輔・温琳著 朝日出版社
参考図書	『中国語学習辞典』 相原茂編著 朝日出版社
事前・ 事後学修	CD、教科書とプリントを使って、授業前に20分間予習して、新しい単語を覚えておきましょう。授業後に60分間CDを繰り返して聞いて、プリントの問題をやり遂げて、会話文を流暢に読めるようにしてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	外国語
単位数他	1 単位 (30 時間)
科目の位置付	様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	本学の教育課程にある外国語科目（英語Ⅰ、英語ⅡA、英語ⅡB、スペイン語、中国語、ポルトガル語）以外の外国語科目を、放送大学で履修し習得した場合に、本科目の単位として認定します。
到達目標	—
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>2018 年度に放送大学で開講する科目で、この科目の単位として認定できる科目は、以下のとおりです。</p> <p>フランス語Ⅰ</p> <p>韓国語Ⅰ</p> <p>初歩のイタリア語</p>

アクティブ ラーニング	—
評価方法	—
課題に対するフィード バック	—
指定図書	—
参考図書	—
事前・ 事後学修	—
オフィス アワー	—

科目名	海外研修
科目責任者	マックリン・リチャード
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	海外で諸文化等に触れることで、その国の保健医療福祉事情を知り、異文化や価値観の多様性などの学びを通して、グローバルな視野を養うことを目指します。さらに、保健・医療・福祉の視点で、異なる専門職を目指す学生との交流を通し多職種連携の意義について考えます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な視野で保健医療福祉を考えるきっかけとする。 2. 保健・医療、看護、社会福祉の問題に関するグローバルな視点に立った思考や活動へのきっかけとする。 3. 研修を行う国の生活や文化に直接触れることで、人間・社会・環境への理解を深める。 4. 研修を行う国の人々とのコミュニケーションをとることができる。 5. 英語能力を高めること。
授業計画	<p><担当教員名> マクリーン、パターソン、渥美陽子、坂本飛鳥</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院 (シンガポール研修)、第三軍医大学 (中国研修)、カトリックサンジ大学 (韓国研修) を拠点に行う研修に参加するために事前研修・研修前準備を行い、研修後に課題レポートを提出する。</p> <p>I. 事前研修</p> <p>研修を行う国の概要や保健医療福祉の現状、教育制度等について学習する。</p> <p>研修を行う国の文化・習慣について学習する。</p> <p>研修先施設の概要について調べる。</p> <p>英語による自己紹介やコミュニケーションのとり方を練習する。</p> <p>国際人に求められるマナーや態度を理解する。</p> <p>II. 研修参加目的や自己紹介等の文書を英語で作成する。</p> <p>III. 海外研修</p> <p>1. 研修先</p> <p>シンガポール研修 (受け入れ機関 ナンヤン理工学院)</p> <p>中国研修 (受け入れ機関 第三軍医大学)</p> <p>韓国研修 (受け入れ機関 カトリックサンジ大学)</p> <p>オーストラリア研修 (エディス・コーワン大学)</p> <p>2. 期間</p> <p>8日間</p> <p>IV. 課題レポートの作成</p> <p>研修の内容を基にして学んだことをレポートにまとめ、提出する。</p> <p>海外研修報告会に参加する。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、現地での討論型学習、プレゼンテーション、Moodle の活用、デブリーフィング
評価方法	事前研修 30%、海外研修時の態度・知識の評価 40%、課題レポート 30%
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修は、自国の保健・医療・福祉の事情について説明できることや研修先について事前に調べる必要があります。事後学修は、研修内容をこれからの保健・医療・福祉実践に活用できるように整理しておくことです
オフィスア ワー	時間については初回授業時に提示します

科目名	情報処理 I ※看護学部・社会福祉学部
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (30 時間) 看護学部・社会福祉学部 選択 春
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>現在では、業種や職種を問わず、あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また、スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり、ネット上のマナーや危機対策についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では、パソコンの基本的な操作と簡単な文書作成(Word, PowerPoint), 併せて情報端末やインターネットを正しく安全に利用するためのマナーや利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Ⅲとの同時履修は不可</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. OS (Windows) の基本操作ができる。 2. 電子メールや WWW などのインターネットサービスを利用することができる。 3. 日本語ワープロソフトによる基本的な文書作成ができる。 4. プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成とプレゼンテーションができる。 5. ネットの危険性やマナーに関する知識を持ち正しく安全に利用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>津森 伸一, 隆 朋也, 高口 鉄平</p> <p>第 1 回: ガイダンス, パソコンの基本操作, タッチタイピング</p> <p>第 2 回: フォルダとファイルの管理と操作</p> <p>第 3 回: Gmail(電子メール)・Google ドライブの基本操作</p> <p>第 4 回: Web ブラウザの操作方法と Web ページの閲覧</p> <p>第 5 回: Word, IME の基本操作 / SNS の注意点 - 個人情報の管理, プライバシー</p> <p>第 6 回: 文書の入力と印刷 / SNS の注意点 - ネットでの発信</p> <p>第 7 回: 書式設定, 文字修飾 / SNS の注意点 - 出会い系</p> <p>第 8 回: 表の活用 / ネット詐欺 - ネットで送金</p> <p>第 9 回: PowerPoint の基本操作, スライドの作成 / 情報の管理 - パスワード</p> <p>第 10 回: 画像の挿入と編集 / 情報の管理 - USB メモリ等の利用</p> <p>第 11 回: 図形機能 / 著作と利用</p> <p>第 12 回: 画面切り替え効果とアニメーションの基礎 / 著作と利用</p> <p>第 13 回: アニメーションの応用 / 著作と利用</p> <p>第 14 回: ビデオ/オーディオの取り込み, ビデオの作成 / 著作と利用</p> <p>第 15 回: プレゼンテーションスライド作成演習</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いた教材提示や課題の授受を行う。
評価方法	課題の提出をもって 100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭や Moodle のメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	『30 時間でマスター Office2013』実教出版編集部編，実教出版
参考図書	特に指定しない
事前・ 事後学修	事前学修として，次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15 分程度） 事後学修として，授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみる（25 分程度）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：毎週木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	情報処理 I ※リハビリテーション学部
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (30 時間) リハビリテーション学部 選択 春
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>現在では、業種や職種を問わず、あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また、スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり、ネット上のマナーや危機対策についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では、パソコンの基本的な操作と簡単な文書作成(Word, PowerPoint), 併せて情報端末やインターネットを正しく安全に利用するためのマナーや利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Ⅲとの同時履修は不可</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本的な設定・管理と OS (Windows) の基本操作ができる。 2. 電子メールや WWW などのインターネットサービスを利用することができる。 3. 日本語ワープロソフトによる基本的な文書作成ができる。 4. プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成とプレゼンテーションができる。 5. ネットの危険性やマナーに関する知識を持ち正しく安全に利用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： ガイダンス, 配布(2in1)パソコンの基本操作</p> <p>第 2 回： Windows の基礎的操作, ソフトのインストールと設定の方法</p> <p>第 3 回： コントロールパネルを用いた基本的な設定, Google ドライブの利用方法</p> <p>第 4 回： Web ブラウザの操作方法と Moodle の使用方法</p> <p>第 5 回： Word, IME の基本操作 / SNS の注意点 - 個人情報の管理, プライバシー</p> <p>第 6 回： 文書の入力と印刷 / SNS の注意点 - ネットでの発信</p> <p>第 7 回： 書式設定, 文字修飾 / SNS の注意点 - 出会い系</p> <p>第 8 回： 表の活用 / ネット詐欺 - ネットで送金</p> <p>第 9 回： PowerPoint の基本操作, スライドの作成 / 情報の管理 - パスワード</p> <p>第 10 回： 画像の挿入と編集 / 情報の管理 - USB メモリ等の利用</p> <p>第 11 回： 図形機能 / 著作と利用</p> <p>第 12 回： 画面切り替え効果とアニメーションの基礎 / 著作と利用</p> <p>第 13 回： アニメーションの応用 / 著作と利用</p> <p>第 14 回： ビデオ/オーディオの取り込み, ビデオの作成 / 著作と利用</p> <p>第 15 回： プレゼンテーションスライド作成演習</p>

アクティブ ラーニング	リハビリテーション学部新生に配布する2in1パソコンを用いて授業を行う。また、教材提示や課題の授受はMoodleを用いて行う。
評価方法	課題の提出をもって100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭やMoodleのメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	『30時間でマスター Office2016』実教出版編集部編，実教出版
参考図書	特に指定しない
事前・ 事後学修	事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15分程度） 事後学修として、授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること（25分程度）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9時～12時 上記以外でもメール（shinichi-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	情報処理Ⅱ
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>現在では、業種や職種を問わず、あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また、スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり、それらの機器やそこで扱う情報の安全管理についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では、パソコンを用いたデータ処理(Excel)のための基本的技能、併せて情報を安全に管理・活用するための利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Ⅲとの同時履修は不可</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフトを用いて数値データを適切に集計・処理することができる。 2. 表計算ソフトでグラフを作成し、データを判りやすい形式で表現することができる。 3. ファイルなどの情報を安全に管理し、紛失や漏洩などの危険性に備えることができる。 4. 情報機器の危険性に関する知識を持ち、正しく安全に利用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>隆 朋也, 津森 伸一</p> <p>第 1 回：ガイダンス, Excel の基本操作, データの入力</p> <p>第 2 回：基本的なワークシート編集 / Office ファイルのパスワード保護</p> <p>第 3 回：関数の利用</p> <p>第 4 回：相対参照・絶対参照</p> <p>第 5 回：基本的なグラフの作成 / ファイルやフォルダの暗号化</p> <p>第 6 回：やや高度なグラフの作成</p> <p>第 7 回：IF 関数による条件判定</p> <p>第 8 回：複号条件による判定 / スマートフォンのセキュリティ対策</p> <p>第 9 回：関数を利用した検索と順位づけ</p> <p>第 10 回：関数を利用した統計計算</p> <p>第 11 回：データの検索と置換, 条件付き書式の活用</p> <p>第 12 回：データの並び替えとフィルター / パソコンのセキュリティ対策</p> <p>第 13 回：表やグラフの Word 文書への貼り付け</p> <p>第 14 回：Google フォームの活用と Excel へのエクスポート</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いた教材提示や課題の授受を行う。
評価方法	課題の提出をもって 100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭やMoodle のメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	『30 時間でマスター Office2013』実教出版編集部編，実教出版 (『30 時間でマスター Office2016』を所有している場合は、同書でも可)
参考図書	特に指定しない
事前・ 事後学修	事前学修として，次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15 分程度）. 事後学修として，授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること（25 分程度）.
オフィス アワー	所属学部：看護学部 研究室：1605 研究室 時間：木曜日 14 時～18 時 上記以外でもメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	情報処理Ⅲ
科目責任者	津森 伸一
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	<p>情報処理Ⅰ・Ⅱで修得した技能を基に、必要な情報を適切に扱い問題解決を行うための応用的なスキルを修得することを狙う。日本語ワープロソフト(Word)については、図表やイラスト等を用いたパンフレットやチラシのような視覚に訴える文書の作成方法などを学ぶ。表計算ソフト(Excel)については、定型的な処理を自動的に行うプログラム(VBA)の作成方法を学ぶ。本科目は、情報処理Ⅰ・Ⅱを履修済みであるか同等の知識と技能を有することを前提とする。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Ⅰ・Ⅱとの同時履修は不可</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図表を含むワープロ文書の作成ができる 2. 長文作成に必要な機能(目次等)を利用することができる 3. 表計算ソフト(Excel)のマクロ機能を利用することができる 4. VBA(Visual Basic for Application)を用いた簡単なExcel マクロを作成できる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一, 隆 朋也</p> <p>第 1 章 日本語ワープロソフト Word を用いた高度な文書作成</p> <p>第 1 回: ガイダンス, 情報処理Ⅰで学習した内容の復習</p> <p>第 2 回: 画像の活用</p> <p>第 3 回: 図形描画機能, テキストボックスの利用</p> <p>第 4 回: パンフレット・チラシのような文書の作成</p> <p>第 5 回: 参考資料(目次, 引用, 脚注)の設定</p> <p>第 6 回: 差し込み文書機能の活用, ハガキの作成</p> <p>第 2 章 表計算ソフト Excel におけるプログラムの作成と利用</p> <p>第 7 回: 情報処理Ⅱで学習した内容の復習</p> <p>第 8 回: マクロとは, マクロの書式</p> <p>第 9 回: 計算式, 変数の利用</p> <p>第 10 回: 条件分岐</p> <p>第 11 回: 繰り返し (for 文)</p> <p>第 12 回: 条件分岐と繰り返しの組み合わせ</p> <p>第 13 回: サブルーチン</p> <p>第 14 回: 関数の作成</p> <p>第 15 回: 総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いた教材提示や課題の授受を行う。
評価方法	課題の提出をもって 100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭や Moodle のメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	『30 時間でマスター Office2013』 実教出版編集部編, 実教出版
参考図書	『入門者の Excel VBA』 立山秀利, 講談社
事前・ 事後学修	事前学修として, 次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと (15 分程度) 事後学修として, 教科書や参考資料の類題を学習すること (25 分程度)
オフィス アワー	所属学部: リハビリテーション学部 研究室: 3517 研究室 時間: 木曜日 9 時~12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	哲学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	哲学史を素材に哲学の根本問題を見ていく。授業はすべてパワー・ポイントを用い、テーマの関連性に配慮しつつ、分かりやすく説明する。なお、後半三回にわたって、仏教の基本思想を講義する。日本人の基礎教養として、しっかりと学んでほしい。
到達目標	1. 哲学の主要なテーマについて理解を深めること。 2. 哲学的な思索の特徴をつかむこと。 3. 各自が思索する際の基礎的知識を身につけること。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：論理の発見（イオニア学派とエレア学派）</p> <p>第 2 回：無知の知（ソクラテスとソフィスト）</p> <p>第 3 回：イデアと現実</p> <p>第 4 回：アパテイア</p> <p>第 5 回：新プラトン主義とアウグスティヌス</p> <p>第 6 回：普遍論争とイスラムの哲学</p> <p>第 7 回：コギト・エルゴ・スム</p> <p>第 8 回：経験論とカント</p> <p>第 9 回：定言命法と法の哲学</p> <p>第 10 回：弁証法</p> <p>第 11 回：『死に至る病』</p> <p>第 12 回：弁証法的唯物論</p> <p>第 13 回：原始仏教</p> <p>第 14 回：空の思想</p> <p>第 15 回：唯識の思想</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対する フィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	特になし。
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	配布した資料の既習分を復習し、次回テーマについて予習しておく。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	文学
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP (1) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本授業では、奈良時代から平安時代までの文学作品を取り上げ、文学の芸術性を学ぶ。また、日本古代の文学作品を読むことによって、Yes と No がはっきり言えない、あるいは桜花や朧月のようなぼんやりとしたはかないものを好む、日本独自の文化というものをも探してみたい。さらに、学問の基本的考え方を学んで、日本文学史の問題を解明する作業も行う。
到達目標	1. 文学が芸術であることを学修する 2. 日本独自の文化について学修する 3. 学問の基本的な考え方を学修する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : 本授業の説明・芸術としての「文学」</p> <p>第2回 : 古事記 (日本の神々と聖婚)</p> <p>第3回 : 古事記 (イザナギ・イザナミと国生み)</p> <p>第4回 : 古事記 (天照大御神とスサノオ)</p> <p>第5回 : 古事記 (ヤマタノオロチと三種の神器)</p> <p>第6回 : 古事記 (天孫降臨、天皇家と日本の宗教)</p> <p>第7回 : 万葉集 (万葉集と日本の文化)</p> <p>第8回 : 万葉集 (日本文化と神としての天皇)</p> <p>第9回 : 万葉集 (庶民の生活と昔話)</p> <p>第10回 : 古今和歌集 (古今集と紀貫之)</p> <p>第11回 : 古今和歌集 (古今集と和歌)</p> <p>第12回 : 古今和歌集 (和歌と日本文化)</p> <p>第13回 : 伊勢物語 (伊勢物語とは)</p> <p>第14回 : 伊勢物語 (伊勢物語と古今集の関係)</p> <p>第15回 : 伊勢物語 (伊勢物語成立説の検討)</p>

アクティブ ラーニング	授業の中で課題に取り組んでもらう回を設けてある。
評価方法	定期試験を 100 点満点とするが、課題をクリアした場合は、10 点を限度として加点する。 なお、再試験は行わない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・課題に対するフィードバックは、次の授業中に行う。
指定図書	テキストとして、プリントを配布する。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	前もって、テキストを配布するので、指定した部分をあらかじめ読んでくること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。

科目名	国語表現法
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	日本語は、世界で最も難しい言語の一つである。それだけに、とても面白い言語だということも理解してほしい。ただし、やはり難しい言語であるので、しっかりした文法や決まりも理解しなければならない。それを理解した上で、説明文、レポート、小論文などの書き方を学び、学業において困ることがないようにすることを目的としたい。
到達目標	1. 日本語について理解する 2. 日本語の表現について学修する 3. 敬語と手紙の表現を学修する 4. レポート・論文の書き方について学修する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：日本語表現法概説1<日本語とはどんな言語か、何を学ぶのか></p> <p>第2回：日本語表現法概説2<日本語とはどんな言葉か2></p> <p>第3回：日本語の特徴<標準語と方言、書き言葉と話し言葉等></p> <p>第4回：日本語の言いまわしく日本語独特の表現・適切な表現></p> <p>第5回：主語と述語1<助詞「は」と「が」></p> <p>第6回：主語と述語2<助詞「が」と「を」、「も」・助動詞></p> <p>第7回：文章（文と文のつながり）1<文の接続と句読点></p> <p>第8回：文章（文と文のつながり）2<文の構造と悪文></p> <p>第9回：敬語1<敬語とは></p> <p>第10回：敬語2<敬語用法の実際></p> <p>第11回：手紙を書く<手紙の書き方と敬語></p> <p>第12回：文章要約<文章を要約する></p> <p>第13回：説明文<説明文を書く></p> <p>第14回：小論文<レポート・小論文を書く></p> <p>第15回：説明文・小論文の解説<説明文・小論文の解説></p>

アクティブ ラーニング	毎回、授業の最後に課題を行い、提出してもらおう。
評価方法	毎回の提出物 20%、筆記試験 80%、計 100%。 なお、再試験は行わない。
課題に対する フィード バック	毎回の課題に対するフィードバックは、次の授業で行う。
指定図書	テキストとして、毎回プリントを配布する。
参考図書	国語辞典（これまで使ってきたもの）または電子辞書があると便利かもしれない（必須ではない）。
事前・ 事後学修	課題に対するフィードバックを参考に、必ず復習をすること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。

科目名	心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位(30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	人間理解をする上で必要な心理学的知識の基礎について講義を行う。心理学の領域は多岐にわたるため、代表的な各領域の基礎的な事柄について、具体的事例を通して人間理解の基本的な視点・理論を紹介する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助の専門職として人間理解（自己理解・他者理解）をする上で必要かつ基礎的な心理学的知識を修得する。 2. 自分や他者を理解することや人間の心に対する興味・関心を高める。 3. 心理学的知識を得ることで、自分自身や他者との関わりについて見つめなおす。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 心理学とは何か</p> <p>第2回 感覚・知覚・認知1：感覚・知覚の一般的特徴と個人差</p> <p>第3回 感覚・知覚・認知2：知覚の体制化、錯視</p> <p>第4回 感覚・知覚・認知3：知覚の恒常性、文脈の効果、選択的注意</p> <p>第5回 人格・性格1：性格検査①（エゴグラム）</p> <p>第6回 人格・性格2：性格検査②（20答法）</p> <p>第7回 人格・性格3：性格検査③（性格の理解）</p> <p>第8回 人格・性格4：性格検査の種類</p> <p>第9回 人格・性格5：性格理論、気質</p> <p>第10回 記憶1：記憶のメカニズム</p> <p>第11回 記憶2：短期記憶、長期記憶</p> <p>第12回 記憶3：忘却、目撃証言</p> <p>第13回 学習理論1：条件づけ</p> <p>第14回 学習理論2：観察学習、動機づけ</p> <p>第15回 適応：ストレスとコーピング</p>

アクティブ ラーニング	クリッカーによる双方向的な授業を行う。
評価方法	定期試験80%, 授業への取り組み状況20%
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答を全体に向けてパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	特になし。
参考図書	特になし。
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、講義内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。

科目名	倫理学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	生命科学の急速な進歩により、人間の自然な誕生と死の現場に、科学技術が人為的な介入を開始して久しい。今や、素晴らしいとだけは言っておれない、様々な問題が噴出してきている。授業では、生命倫理を中心に、人間の生と死について、改めて思索を深めたい。授業は、パワー・ポイントを用い、ビデオなども見ながら、分かりやすく進める。
到達目標	1. 生命倫理学の基礎知識を習得する。 2. 現代における死生観の可能性を探る。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：生命倫理学の展開</p> <p>第 2 回：インフォームド・コンセント</p> <p>第 3 回：遺伝子の解読</p> <p>第 4 回：西洋医学の伝統</p> <p>第 5 回：死の隠蔽・タブー化</p> <p>第 6 回：出生前診断・中絶</p> <p>第 7 回：生殖技術</p> <p>第 8 回：脳死と臓器移植</p> <p>第 9 回：安楽死・尊厳死</p> <p>第 10 回：エイズ・薬害</p> <p>第 11 回：高齢化社会</p> <p>第 12 回：パーソン論</p> <p>第 13 回：仏教の生命観</p> <p>第 14 回：キリスト教の生命観</p> <p>第 15 回：生命の諸次元</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対する フィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	小泉博明他編『テーマで読み解く生命倫理』教育出版株式会社、2016
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	テキストの該当箇所、配布資料で、予習・復習する。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	女性学	
科目責任者	杉本 貴代栄	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春	
科目の位置付	DP(1) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。	
科目概要	歴史的にも現在も、女性が男性に対して劣位におかれているということ、それはジェンダー(社会的・文化的な性差)から派生する問題であるというフェミニズムの認識のうえに立って、女性のおかれている現代的状況を考察する。特に、福祉社会において女性が抱える問題を明らかにし、現代社会における女性の生き方を検討する。講義をとおして、福祉社会のなかで女性が主体的に生きることについて考えたい。	
到達目標	1. フェミニズムの歴史と理論を理解する 2. 女性労働の歴史と変化を理解する 3. ジェンダーに関連する社会福祉政策の知識を得る 4. 福祉医療専門職に関するジェンダー課題を認識する	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員>杉本貴代栄、須藤八千代></p> <p>第 1 回：講義概要・日常生活のなかのジェンダー 杉本貴代栄</p> <p>第 2 回：女性学について 杉本貴代栄</p> <p>第 3 回：女性政策の歴史 (1) 女性差別撤廃条約を中心に 杉本貴代栄</p> <p>第 4 回：女性政策の歴史 (2) 男女共同参画社会基本法を中心に 杉本貴代栄</p> <p>第 5 回：女性労働政策と均等法(1) 杉本貴代栄</p> <p>第 6 回：女性労働政策と均等法(2) 杉本貴代栄</p> <p>第 7 回：外国の労働政策(映画鑑賞) 杉本貴代栄</p> <p>第 8 回：子育て支援政策 杉本貴代栄</p> <p>第 9 回：ドメスティック・バイオレンス 杉本貴代栄</p> <p>第 10 回：福祉医療専門職と女性学(1) (女性に向ける視点) 須藤八千代</p> <p>第 11 回：福祉医療専門職と女性学(2) (女性と暴力) 須藤八千代</p> <p>第 12 回：福祉医療専門職と女性学(3) (女性と性) 須藤八千代</p> <p>第 13 回：福祉医療専門職と女性学(4) (女性と結婚、家族、古い) 須藤八千代</p> <p>第 14 回：福祉医療専門職と女性学(5) (相談事業と女性) 須藤八千代/浜松市男女共同参画センター</p> <p>第 15 回：フェミニズム理論 杉本貴代栄</p>	

アクティブ ラーニング	適切な課題があれば、グループによる討論、または全員を対象としたディスカッション等を講義のなかで取り入れる。
評価方法	定期試験 60%、授業参加・授業取り組みへの状況 20%、コメントカード（授業の理解、意欲等） 20%
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例の提示、コメントカードによる意見を提示する。
指定図書	『女性学入門<改訂版>：ジェンダーで社会と人生を考える』杉本貴代栄編著、ミネルヴァ書房、2018年
参考図書	なし
事前・ 事後学修	日頃から新聞などに目を通し、社会の動向を把握するよう心がけること。各回 40 分目安。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に、もしくは教務事務センターを介して受け付ける。

科目名	レクリエーション概論
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	レクリエーションは、医療・福祉・教育の様々な場面で活用されている。レクリエーションの概念と意義を理解したうえで、レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を学び、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションとは何か、現代社会においてレクリエーションがいかに大切であるかを理解する。 2. レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を理解し、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かす。 3. 自分自身のレジャー、レクリエーションの必要性を知り、より心豊かな生活を指向できるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：レクリエーションとは何か 学びへの導入 レクリエーションとは〇〇〇である</p> <p>第 2 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (1) 障害者スポーツ、絵画療法 現場見学の説明</p> <p>第 3 回：日本におけるレクリエーションの歴史 日本におけるレクリエーションは〇〇〇により普及した</p> <p>第 4 回：人間の権利としてのレクリエーション 障害者にとって〇〇〇〇も喜びなのだ</p> <p>第 5 回：レクリエーションの本質 レクリエーションとは〇〇的なものであるがゆえに〇〇である</p> <p>第 6 回：レジャーを考えるー余暇生活設計ー 日本人は〇〇時間の約 3 倍の〇〇時間をもっている 日本人が最も多く自由時間を費やしているのは〇〇である</p> <p>第 7 回：レジャーへの理解を深める 〇つの楽しい、自由時間の〇つの過ごし方</p> <p>第 8 回：レジャー・レクリエーションの視点から、子どもたちの問題を考える 遊び成立の条件〇つの間 〇〇〇に子守りをさせないで！</p> <p>第 9 回：レクリエーション援助とは 個人へのレクリエーション援助 入院している高齢者の願いは何か？</p> <p>第 10 回：集団を介した援助 レクリエーション環境の整備 行事の意味 すてきな保育園の環境づくり</p> <p>第 11 回：レクリエーション計画 企画の基本要件〇WOH アセスメント入門</p> <p>第 12 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (2) 回想法、遊びリテーション</p> <p>第 13 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (3) 障害者スポーツ、生きがい療法</p> <p>第 14-15 回：福祉現場におけるレクリエーションの実際(現場見学) 静岡バリアーズ(車椅子ツインバスケ)、浜松ボッチャ倶楽部 COOL、 絵画教室(第 2 アドナイ館)</p> <p><受講者へのメッセージ>履修希望の学生は、第 1 回目から出席してください。履修希望者が履修可能人数より多い場合、第 1 回目の出席者を優先します。</p>

アクティブ ラーニング	ピアタイム（ペアで意見交換）、アニマルタイム（マイクで発表）、Moodle へのフィードバック 現場見学
評価方法	レポート60%、授業への取組（関心・意欲・態度、Moodleフィードバック）40% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対す るフィード バック	Moodle やメールを活用し、フィードバックする。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房 土門拳『腕白小僧がいた』小学館 リンダ・グラットン『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社 河合雅男『子どもと自然』岩波書店 ノーマン・カズンズ『笑いと治癒力』岩波書店 他 授業時に紹介する
事前・ 事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後に Moodle にてフィードバックを行う。 授業での学びを日常生活、実習等に活用する。目安時間 40 分。
オフィス アワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示

科目名	音楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身に付けている。
科目概要	この授業は一般教養として広く音楽に触れ、知識や技術を磨き、感性を高め教養を身に付けるための科目です。日本や世界の音楽を鑑賞し、歌唱等の音楽表現を通して広義に音楽について触れ学修します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を学び音楽の構造を捉えることができる。 2. 音楽の鑑賞を通して曲の構成や曲想について感受することができる。 3. 歌唱の活動を通してハーモニーに美しさを感じ声で表現することができる。 4. 世界の様々な音楽のジャンルに触れ比較することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 日本 ドイツ</p> <p>第3回： 音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 アメリカ フランス</p> <p>第4回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 楽器の種類と音色</p> <p>第5回： 音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 ズーラシアンブラス</p> <p>第6回： 音楽の基礎と鑑賞 オーケストラの世界</p> <p>第7回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 東南アジア ヨーロッパ</p> <p>第8回： 音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 アフリカ 南アメリカ 日本</p> <p>第9回： 音楽の基礎と鑑賞 Jポップスの世界 ジャズの世界</p> <p>第10回： 音楽の基礎と鑑賞 オペラの世界</p> <p>第11回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第12回： 美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第13回： 子どもの発達と音楽の世界</p> <p>第14回： 映画音楽の世界</p> <p>第15回： 世界の音楽</p>

アクティブ ラーニング	音楽を視聴し言葉で批評たり合唱曲を歌う等の活動を通して体験的に学びを深化させていきます。
評価方法	授業態度 20%、個別課題 40%、レポート 40% ※個別課題では、各自のお気に入りの曲を紹介してもらいます。
課題に対する フィード バック	実技の場面ではグループ及び個人に対してアドバイスを致します。
指定図書	なし
参考図書	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）
事前・ 事後学修	各自講義の中で扱った曲について練習しておいてください。楽譜を手掛かりに事前・事後学修として音をとったり、リズムを確認したり、音楽を視聴するなどしましょう。目安時間 40 分。
オフィス アワー	初回時にお伝えします。

科目名	音楽
科目責任者	金山 智彦
単位数他	1単位(30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	この科目では「音楽とは？」という問いを意識しつつ、様々な視点から「音楽」について考察し、実践することを通して、「音楽」についての理解を深め、「音楽」に対する感性を磨く。さらにこの体験を、仕事や日常生活に活かし、生涯にわたり音楽文化に親しみ、豊かな人生を歩むことを目的とする。
到達目標	1. 音楽一般について、知識を身につけ、理解を深める。(音楽理論、歴史、様式など) 2. 演奏(合唱など)や、鑑賞を通して、音楽の素晴らしさを体感する。 3. 音楽と生活の関りを意識し、自他の人生(社会)をより豊かにするために、音楽を活用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回: What's music? (あなたにとって音楽とは? 音楽は〇〇〇の叫び?)</p> <p>第2回: What a wonderful 音楽の教科書! (あの素晴らしい小・中学校の音楽をもう一度!)</p> <p>第3回: 指揮者になっ Ciao! (自分の思いを伝えよう! Conductor の存在意義とは?)</p> <p>第4回: 西洋音楽の歴史 Part 1 (音楽のルーツとは? 「ちょうちょうハちょうちょう?」)</p> <p>第5回: 西洋音楽の歴史 Part 2 (調の確立と崩壊と! Challenge the 現代音楽!)</p> <p>第6回: 「ド・レ・ミ」はどこから? (ドはドーナツのド? グレゴリオ聖歌の響き, 音名・階名・長短調!)</p> <p>第7回: 「ドレミの歌」に見る作・編曲の極意! (誰でも曲が作れ Chau!)</p> <p>第8回: 記譜法の歴史(ヨーロッパ編) (どう記録する? あなたの歌(曲)をあなたなら…)</p> <p>第9回: 楽器あれこれ! 管・弦・打・鍵! (グラヴィチェンバロ コル ピアノ エ フォルテとは?)</p> <p>第10回: ゴスペルソングを歌おう! Part 1 (『こげよマイケル』何を漕ぐ? / 『Amazing Grace』 / 奴隷制度とキリスト教 / Hallelujah & Amen)</p> <p>第11回: ゴスペルソングを歌おう! Part 2 (ア・カペラ a cappella に挑戦! 『Kum Ba Yah』って何語? / Christmas Songs)</p> <p>第12回: 音楽とイメージ (映画の中の音楽・日常生活の中の音楽 オペラと歌舞伎とフィギュアスケートと…)</p> <p>第13回: 声楽と器楽(形式と編成)あれこれ! (交響曲とは? 協奏曲とは? クワルテットとは?)</p> <p>第14回: Jazz・Rock・Pops & 世界の音楽エトセトラ!</p> <p>第15回: 『ファイナル ミニ コンサート』(まとめ)</p>

アクティブ ラーニング	授業のテーマに関連する実習を随時行う。(合唱, 合奏, 鑑賞, 創作など)
評価方法	授業への取り組み状況、課題提出物 (リアクションペーパー) : 30% レポート (定期試験) : 70%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー、レポートにコメントを記入し返却する。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	いろいろな音楽に興味・関心を持ち、日常生活 (仕事) の中で音楽を活用することを試みる。 歌唱、楽器演奏、音楽鑑賞などを含め原則 40 分間。 (読譜能力、歌唱力、楽器演奏能力のレベルは特に問わない。)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	スポーツ I
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	各学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、ラケットスポーツ（硬式テニス、卓球、バドミントン）を利用して段階的に運動の基礎を充実するための授業を展開する。 様々なラケットスポーツを行い、楽しみながら自己の体力と運動技術に対する理解を深める。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 様々なスポーツを実施し、楽しみながら健康管理能力を養うことで、生涯スポーツの重要性を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス（体育館：初回のみ着替え不要 *欠席者は教員へ個別連絡が必要） 第 2 回：テニス① テニス導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム 第 3 回：テニス② ラケットティング、打法の練習、レベル別のシングルスゲーム 第 4 回：テニス③ ダブルスのルール説明、レベル別のダブルスゲーム 第 5 回：テニス④ テニスの実技テスト・レポート課題 第 6 回：卓球① 卓球導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム 第 7 回：卓球② ラケットティング、打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム 第 8 回：卓球③ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のダブルスゲーム 第 9 回：卓球④ ダブルスのルール説明、レベル別のダブルスゲーム 第 10 回：卓球⑤ 卓球の実技テスト・レポート課題 第 11 回：バドミントン① バドミントン導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、ゲーム 第 12 回：バドミントン② 打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム 第 13 回：バドミントン③ トリプルのルール説明、アップダウン形式のゲーム 第 14 回：バドミントン④ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のゲーム 第 15 回：バドミントン⑤ バドミントンの実技テスト・レポート課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第 1 回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第 2 回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・テニスでは屋外シューズ、バドミントン・卓球では体育館シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止。 ・受講者全員が楽しく効果が上がるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、学修ポートフォリオ
評価方法	基本技術の習得状況・達成度（小テスト・実技テスト）30%、レポート課題30%、授業態度20%、用具の取り扱いと準備・片付け10%、服装10% 再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・ 事後学修	履修前に各種目の歴史・ルール・マナーを学修し、必要となる技術や自分にとって理想的な戦術を考える（約40分）。授業後は問題点を確認し、次回のレベル向上につなげる（約40分）。
オフィス アワー	【科目責任者】安田智洋（看護学部、1206研究室、火曜・金曜13:00～18:00）

科目名	スポーツⅡ
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	各学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール）を利用して段階的に運動の基礎を充実するための授業を展開する。 様々な球技スポーツを行い、楽しみながら自己の体力と運動技術に対する理解を深める
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 様々なスポーツを実施し、楽しみながら健康管理能力を養うことで、生涯スポーツの重要性を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス（体育館：初回のみ着替え不要 *欠席者は教員へ個別連絡が必要） 第2回：バスケットボール① バスケットボール導入の小テスト(ルール等)、基礎練習、ゲーム 第3回：バスケットボール② 基礎練習、チーム練習（ドリブル、パス）、ゲーム 第4回：バスケットボール③ 基礎練習、チーム練習（レイアップシュート）、ゲーム 第5回：バスケットボール④ 基礎練習、チーム練習（対人プレー、シュート全般）、ゲーム 第6回：バスケットボール⑤ ゲーム（戦略を練る、試合で問題点を確認） 第7回：バスケットボール⑥ ゲーム（戦略を練る、試合で問題点を確認） 第8回：バスケットボール⑦ バスケットボールの実技テスト・レポート課題 第9回：バレーボール① バレーボール導入の小テスト(ルール等)、基礎練習、簡易ゲーム 第10回：バレーボール② 基礎練習、チーム練習（パス、レシーブ）、ゲーム 第11回：バレーボール③ 基礎練習、チーム練習（サーブ、レシーブ）、ゲーム 第12回：バレーボール④ 基礎練習、チーム練習（トス、アタック）、ゲーム 第13回：バレーボール⑤ 基礎練習、チーム練習（アタック、ブロック）、ゲーム 第14回：バレーボール⑥ 基礎練習、チーム練習、ゲーム（戦略を練る、試合で問題点を確認） 第15回：バレーボール⑦ バレーボールの実技テスト・レポート課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第1回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第2回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は40名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・体育館シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止。 ・受講者全員が楽しく効果が上がるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、学修ポートフォリオ
評価方法	基本技術の習得状況・達成度（小テスト・実技テスト）30%、レポート課題30%、授業態度20%、用具の取り扱いと準備・片付け10%、服装10% 再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・ 事後学修	履修前に各種目の歴史・ルール・マナーを学修し、必要となる技術や自分にとって理想的な戦術を考える（約40分）。授業後は問題点を確認し、次回のレベル向上につなげる（約40分）。
オフィス アワー	【科目責任者】安田智洋（看護学部、1206研究室、火曜・金曜13:00～18:00）

科目名	スポーツⅡ
科目責任者	栗原 都
単位数他	1単位(30時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	現代社会では運動機能が低下し、生活習慣病などが増大しているほか、人とのコミュニケーションが希薄で、孤独になりやすい環境にあります。運動は、体力を高め、病気になりにくい身体をつくるだけでなく、人間関係を育み、楽しい生活を営むための要素をたくさん含んでいます。これを認識する為の知識や方法を、エクササイズを通して学習します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なスポーツを体験し、それぞれのスポーツの効果と技術、楽しみ方を学ぶ。 2. スポーツを通して個人の差異を見極め、団体の中で他者と協調し運動の効果を上げる。 3. 上記を修得する中で、仲間意識を深め、人とのふれ合いの重要性を学ぶ。 4. 心身の健康を育み維持する上での運動の重要性を学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：①オリエンテーション ②まずは気持ち良く体をほぐしましょう(ヨガ)</p> <p>第2回：自身の特性を知る体力チェックと雰囲気づくりのレクリエーション的運動</p> <p>第3回：親睦を深める楽しいスポーツ①「フリスビー」</p> <p>第4回：親睦を深める楽しいスポーツ②「バレーボール」</p> <p>第5回：健康を維持するための基本 ①「ウォーキングエクササイズ」②「腹式呼吸法」</p> <p>第6回：筋肉に関する運動と知識 ①「ストレッチ法」</p> <p>第7回：筋肉に関する運動と知識 ②「筋力アップ法」</p> <p>第8回：全身の体力と仲間意識を高める運動 ①「バスケットボール・練習」</p> <p>第9回：全身の体力と仲間意識を高める運動②「バスケットボール・ゲーム」</p> <p>第10回：敏捷性を高める運動「バドミントン」</p> <p>第11回：巧緻性・リズム感を養う運動①「ジャズダンス・振り付けを覚える」</p> <p>第12回：巧緻性・リズム感を養う運動②「作品を踊る」</p> <p>第13・14・15回：心の健康と持久力を養う知識と体験「ハイキング」</p> <p>※ハイキングの日程は第13～15回の3回分をまとめて1日を通して行います。</p> <p>※体育館シューズ・スポーツウェア着用。アクセサリ・時計などの着用禁止。</p> <p>全体が緊張感を持って効果を上げる授業が行えるように、自覚を持って行動してください。他者の士気を下げるような行動には注意しましょう。</p>

アクティブ ラーニング	実技科目です。
評価方法	授業の積極的取り組み態度 60% 協調性・親和性・他者への礼儀正しさ 20% 実技点 20%
課題に対する フィード バック	クラブ活動やサークル等の経験、未経験による技術の差は評価の対象としません。 いかに真摯に取り組んで、自他に効果や影響をもたらしたかを重要とします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	シラバスに書かれた各スポーツに関する様々な情報に興味と親しみをもって学修しておくこと。授業体験後、興味や楽しさ・必要性を感じたスポーツに継続的・積極的に関わるように努める。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	法学
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	<p>みなさんは、法というと、何だか堅苦しくて難しい感じがして、何となく関わりたくないと思うかもしれませんが、法の知識は、みなさんが卒業後に仲間入りする「大人の社会」の常識です。</p> <p>この授業では、身近な例をとり上げながら、できるだけやさしくお話しますから、しっかり学んで、リーガル・マインド <i>Legal Mind</i> を身につけ、危機管理のできる大人になりましょう。</p> <p>前半の授業では、法とは何か、他の社会規範（つまり、道徳や慣習、宗教等）とはどう異なるのか、裁判の仕組みはどうなっているのか、裁判の基準となる法とは何か、等々を、さらに、後半の授業では、みなさんに関係の深い、社会福祉と法、とりわけ相談援助活動と法、成年後見制度、日常生活自立支援事業、成年後見利用支援事業、権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際、等について掘り下げて考えます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学の基礎知識を習得する。 2. 法的思考に馴染む。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：法学を学ぶに当って</p> <p>第2回：法とは何か？</p> <p>第3回：社会規範と法</p> <p>第4回：裁判の仕組み</p> <p>第5回：裁判の基準：制定法、慣習法、判例法、等</p> <p>第6回：法の体系（1）近代法、公法と私法</p> <p>第7回：法の体系（2）社会法</p> <p>第8回：犯罪と法</p> <p>第9回：財産と法</p> <p>第10回：家族と法</p> <p>第11回：社会福祉と法</p> <p>第12回：相談援助活動と法</p> <p>第13回：成年後見制度</p> <p>第14回：日常生活自立支援事業と成年後見制度支援事業</p> <p>第15回：権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際</p>

アクティブ ラーニング	講義科目ですから、特に行いません。
評価方法	定期試験 70%、課題レポート・小テスト等 30%で、総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代法学入門』 伊藤正巳・加藤一郎編 有斐閣双書 ・『ポケット六法』 山下友信他編 有斐閣
参考図書	・授業中に適宜紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・法学の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに、前回の授業で学んだ内容のポイントについての小テストを行う予定ですので、復習に重点を置いて学修するようにしてください。目安時間 40 分。 <p>受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	日本国憲法
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	<p>憲法は、国の基本法であり、国の最高法規だといわれていますが、わたしたちの日常生活にどのような関わりをもち、わたしたちの生活をどのように支えているのかを、受講生のみなさんとともに掘り下げて考え、豊かで健全な人権感覚・人権意識を身につけることを目的とします。</p> <p>この授業では、まず憲法とは何か、日本国憲法で保障されている基本的人権にはどのようなものがあるのか、基本的人権を保障する統治の仕組みはどのようなになっているのか、等々を、身近な事例をとり上げながら、できるだけやさしくお話するつもりです。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的人権にはどのようなものがあり、どのようにして確立されたのかを把握する。 2. 国の統治の仕組みはどのような考えに基づいているのかをしっかりと理解する。 3. 憲法に関する通説と最高裁判所の判例の動きもフォローする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：憲法を学ぶに当たって</p> <p>第 2 回：憲法とは何か？</p> <p>第 3 回：近代国家と憲法</p> <p>第 4 回：明治憲法と日本国憲法</p> <p>第 5 回：基本的人権とは何か？ それほどどのように保障されているのか？</p> <p>第 6 回：19 世紀的基本権（1）自由権〔経済活動・精神活動・身体的自由〕</p> <p>第 7 回：19 世紀的基本権（2）平等権、受益権</p> <p>第 8 回：20 世紀的基本権（1）社会権〔生存権、教育を受ける権利、労働の権利〕</p> <p>第 9 回：20 世紀的基本権（2）参政権</p> <p>第 10 回：権力の分立、立法権と国会</p> <p>第 11 回：行政権と内閣</p> <p>第 12 回：司法権と裁判所</p> <p>第 13 回：違憲立法審査権</p> <p>第 14 回：地方自治の保障</p> <p>第 15 回：平和主義と国際協調</p>

アクティブ ラーニング	講義科目のため、特にありません。
評価方法	定期試験 70%、課題レポート・小テスト 30%で、総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。 ・課題レポートについては、よく書けているレポートを選定し、「課題レポート選」という形で受講生に配布します。
指定図書	『憲法読本』〔第4版〕 杉原泰雄 岩波ジュニア新書 『ポケット六法』〔平成30年度版〕 山下友信他編 有斐閣
参考図書	授業時に適宜紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに前回の授業内容のポイントについての小テストを行いますので、復習に重点をおいて学修するようにしてください。 ・この授業を受講するみなさんには、毎日、新聞に目を通すことを要望します。目安時間 40分。 受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	経済学
科目責任者	高口 鉄平
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	<p>企業の経済活動は、どのような制度のもと、どのような考えに基づいておこなわれているのでしょうか。また、政府が実施する政策は、ほんとうに望ましいものなのでしょうか。</p> <p>この講義では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする経済活動や政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的、基本的な考え方を理解する。 2. 経済学の多様性を知るとともに、経済学の限界も理解する。 3. 身の回りの経済活動を経済学の観点から考察できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : オリエンテーション</p> <p>第2回 : 経済学とはなんだろうか</p> <p>第3回 : ミクロ経済学① : 市場、資源配分の効率性</p> <p>第4回 : ミクロ経済学② : 完全競争市場、市場の失敗</p> <p>第5回 : ミクロ経済学③ : 生産者の理論、消費者の理論</p> <p>第6回 : マクロ経済学① : 家計の消費行動、企業の投資行動</p> <p>第7回 : マクロ経済学② : GDP の決定</p> <p>第8回 : マクロ経済学③ : 財政政策と金融政策</p> <p>第9回 : 情報通信経済学① : 財としての情報</p> <p>第10回 : 情報通信経済学② : ネットワークの特性</p> <p>第11回 : 情報通信経済学③ : 情報通信産業の構造・ビジネス</p> <p>第12回 : 経済政策の考え方</p> <p>第13回 : 行動経済学</p> <p>第14回 : 経済学に対する批判</p> <p>第15回 : まとめ</p> <p>上記の内容、進行を基本としますが、受講者の関心、希望等に応じて、適宜調整します。</p>

アクティブ ラーニング	何回かの講義で、理解を深めるためグループ学習等を取り入れる予定です。
評価方法	講義中の状況（授業に対する姿勢、レポート等）30%、定期試験70%で評価します。
課題に対する フィード バック	定期的コメントを求める場合がありますが、その場合は次の講義時に講義内で紹介、解説します。
指定図書	ありません。参考書等は、適宜、講義中に指示します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	講義後、講義で身につけた考え方をを使って、経済に関するニュースを週に一回40分程度経済学的に検討してみてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教育学
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と、高い倫理観、保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	<p>現代の教育について、哲学、歴史、国際比較、制度、実践、教育問題等の視点から多角的に考察し、理解を深める。</p> <p>教育の歴史、教育の思想、現代の具体的な教育実践の検討を通して、教育とは何か、学びとは何かを考察する。</p> <p>現代の諸外国とわが国で展開される「教育改革」の動向と社会変化の方向性を概観し、これからの社会で求められる新しい教育、学びを考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育とはどういうものかについて、自分の言葉で説明できる。 2. 古代・中世・近世・近代・現代期の教育の特徴を説明できる。 3. 教えるということ、教師の役割について理解を深め、自分の考えを説明できる。 4. 教育病理について理解を深め、原因と問題解決の方法を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：本授業の全体的なガイダンス 教育とは何か？</p> <p>第 2 回 教育とは何か？教育学者が論じる教育とは？</p> <p>第 3 回 教育の歴史 ①古代における教育：プラトンのアカデメイア</p> <p>第 4 回 教育の歴史 ②中世における教育：宗教と学校</p> <p>第 5 回 教育の歴史 ③近世における教育：子どもの発見</p> <p>第 6 回 教育の歴史 ③近代における教育：産業革命と教育</p> <p>第 7 回 教育の歴史④近代における教育：国民国家と教育</p> <p>第 8 回 教育の歴史⑤：現代における教育：福祉国家と公教育制度</p> <p>第 9 回 専門職としての教師の役割とは：理想の教師像</p> <p>第 10 回 専門職としての教師の役割とは：教師の問題</p> <p>第 11 回 専門職としての教師の役割とは：教えるということ</p> <p>第 12 回 教育病理：いじめ・不登校・学級崩壊・暴力行為</p> <p>第 13 回 教育病理 2：学校現場の対応策と改革</p> <p>第 14 回 教育改革：学校教育と教育制度の改革</p> <p>第 15 回 まとめ これからの教育を考える</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、ミニッツ・ペーパー、復習テスト
評価方法	授業内評価点 60%(小テスト・提出課題 40%・授業態度 20%)と 最終テスト 40%で総合評価する。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート・リアクションペーパーへの質問・コメントのスライド提示
指定図書	授業時にテキスト・プリントを配布する。
参考図書	授業時に指摘する。
事前・ 事後学修	事前・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低3回熟読して来てください。提出課題の修正を次回までにしっかりやってください。目安時間 40 分。
オフィス アワー	火曜日 4 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。

科目名	社会学
科目責任者	尾形 泰伸
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	社会学は、世の中に流通している「常識」をたんに寄せ集めたものではありません。むしろ、そうした現代社会における「常識」がいかにか社会的に形成されてきたものであるかを暴露するという意味で、社会学は「脱常識」こそを特長とするとさえ言えます。保健医療福祉の諸事象は現代社会と不可分であることから、本講ではそのつながりを橋渡しする方法として社会学の考え方や理論を取り上げ、現代社会の諸側面を検討していきます。
到達目標	1. 社会学に特長的な「ものの見方」を身につける。 2. 社会学の基礎概念を理解し、説明できる。 3. 現代社会が保健医療福祉についていかなる課題を抱えているかを理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：社会学とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学とはどのような学であるか、他の社会科学との違いと特徴を理解する。 <p>第2回：社会学のまなざしとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学を定義するうえで不可欠な「ものの見方」を理解する。 <p>第3回：社会をいかにとらえるか（1）：ウェーバーの社会学</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェーバーの研究事例を取り上げ、行為を基点とする社会学の方法を学ぶ。 <p>第4回：社会をいかにとらえるか（2）：デュルケムの社会学</p> <ul style="list-style-type: none"> デュルケムの研究事例を取り上げ、集団を基点とする社会学の方法を学ぶ。 <p>第5回：社会をいかにとらえるか（3）：ジンメル社会学</p> <ul style="list-style-type: none"> ジンメルの研究事例を取り上げ、関係から捉える社会学の方法を学ぶ。 <p>第6回：社会集団と組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会集団と組織に関する諸概念をもとに、近代の時代特性を理解する。 <p>第7回：役割と演技</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会生活を役割と演技という観点から捉え返す。 <p>第8回：社会問題の捉え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会問題の捉え方と社会的ジレンマについて理解する。 <p>第9回：自由・管理・統制</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由と管理・統制の歴史的变化とあり方を考察する。 <p>第10回：生活の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たち人間の生および生活が、いかに変化し、現在いかなる地点にあるかを理解する。 <p>第11回：家族の捉え方、家族の現在</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族をめぐる概念と捉え方を理解し、現代における家族の変容や実態を考察する。 <p>第12回：現代社会とジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別を社会的次元から捉え返し、現代社会における性別にかかる諸問題を理解する。 <p>第13回：現代社会と社会階層・移動</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会階層と社会移動など、現代社会が抱える社会経済的な実態について考察する。 <p>第14回：現代社会と社会変動</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちが生きる現代社会がいかなる社会変動に直面しているかを考察する。 <p>第15回：日常生活と社会学</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉を踏まえた「日常生活」とは何かを理解する。

アクティブ ラーニング	原則として講義形式で実施する。
評価方法	定期試験 70%・・・社会学的な「ものの見方」の修得度、そのための概念や用語の理解度により評価する。／リアクションペーパー30%・・・記載内容をもとに授業への取組みとして評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験は、実施後（再試験終了後）moodle にて解答例を提示する。リアクションペーパーについては、抜粋の上でコメントを付してまとめたプリントを配布する。
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	購入は義務ではないが、次の参考文献を元に自主的な学習を推奨する。『増補新版 社会学感覚』野村一夫、文化書房博文社／『社会学入門一歩前』若林幹夫、NTT 出版／『社会学への招待』P. L. バーガー、新思索社／『社会学』奥井智之、東京大学出版会／『社会学の力』友枝敏雄ほか編、有斐閣
事前・ 事後学修	事前学習：次回授業で取り上げられるプリントの空欄箇所を、参考書やウェブで調べておく。（20分程度）／事後学習：課された題に関して考察を加えたリアクションペーパーを提出する。（20分程度）
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	現代コミュニティ論
科目責任者	尾形 泰伸
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	本講では、社会学の理論・方法論をベースとしながら、コミュニティに関連する内容を掘り下げて検討していきます。コミュニティ理解のための基礎概念・理論を押さえたうえで、コミュニティが大きな歴史的な社会変動過程のなかで、現在いかなる地点にあり、いかなる動向を呈しているか、また、いかなる課題に直面しているかを考察します。
到達目標	1. 現代社会におけるコミュニティの実態と課題を理解する。 2. コミュニティをめぐる動向を社会変動過程のなかで把握できている。 3. ソーシャルワーク/ケアワークとコミュニティとの結びつきを理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：現代社会とコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるコミュニティの意義と関連概念を理解する <p>第2回：地域をめぐる歴史とコミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域をめぐる社会の位置づけや動き、コミュニティ概念の広がりを理解する <p>第3回：コミュニティに関わるアクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、企業、NPO、団体・法人等のアクターとジレンマを考える <p>第4回：コミュニティと公共性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共性という視点から地域やネット上のコミュニティを考察する <p>第5回：コミュニティとシティズンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティズンシップとは何かを理解する <p>第6回：社会的排除と包摂（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的排除と従来の概念の異同を理解する <p>第7回：社会的排除と包摂（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティから排除されている人について考察する <p>第8回：社会的排除と包摂（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的包摂へと向かうためのあり方を考察する <p>第9回：コミュニティが抱える課題（1）－家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を切り口としてコミュニティの課題を考察する <p>第10回：コミュニティが抱える課題（2）－文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化を切り口としてコミュニティの課題を考察する <p>第11回：コミュニティが抱える課題（3）－ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を切り口としてコミュニティの課題を考察する <p>第12回：コミュニティの成り立ちを問い直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を用いてコミュニティの成り立ちを考える <p>第13回：コミュニティのニーズを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティのニーズを捉える調査や企画のあり方を考える <p>第14回：いかにコミュニティを構想するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握をふまえて、いかにコミュニティを構想・計画するかを考える <p>第15回：まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティをめぐるこれまでの内容をふまえて、専門職者としてのあり方を考える

アクティブ ラーニング	原則として講義形式で実施するが、受講者数により一部の回（第 9～12 回）に資料にもとづくグループ発表・討議を行うことがある。
評価方法	定期試験 70%・・・コミュニティの諸問題を十分に理解できているか、そのための概念や用語を修得しているかにより評価する。／リアクションペーパー30%・・・記載内容をもとに授業への取り組みとして評価する（グループ討議を実施した回は討議参加貢献度にてその分を代替評価する）。
課題に対する フィード バック	定期試験は、実施後（再試験終了後）moodle にて解答例を提示する。リアクションペーパーについては、抜粋の上でコメントを付してまとめたプリントを配布する。
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	購入は義務ではないが、次の参考文献のいずれかにより自主的な学習を推奨する。『地域の社会学』森岡清志編、有斐閣／『社会的排除』岩田正美、有斐閣／『現代コミュニティとは何か』船津衛・浅川達人編、恒星社厚生閣／『転げ落ちない社会』宮本太郎編、勁草書房／『公共性』斎藤純一、岩波書店
事前・ 事後学修	事前学習：次回授業で取り上げられるプリントの空欄箇所を、参考書やウェブで調べておく。（20分程度）／事後学習：課された題に関して考察を加えたリアクションペーパーを提出する。（20分程度）
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	文化人類学
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	ともすれば私たちは自らの社会が世界の中心と考えたがる。しかし、人類ほど多様な自然環境、多様な社会文化的環境下で生活する生物はいない。国際化が進む現在、自らの社会をこのような相対的視座から理解することは必須である。本科目は人類の多様な生活様式・社会組織・制度・医療等の例示を通して、日本の社会・文化の理解を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の進化を説明できる。 2. 人間の多様な生活様式に関する知識を獲得する。 3. 人間の社会構造について説明できる。 4. 現代日本の家族・社会構造について説明できる。 5. 医療文化に関する知識を習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ヒトの進化（生物としてのヒト）</p> <p>第2回：ヒトの進化（文化をもつ人間の進化）</p> <p>第3回：人種と民族（ヒトの違いとは）</p> <p>第4回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以前、人間はどう生きていたか）</p> <p>第5回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以降、人間はどう生きてきたか）</p> <p>第6回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕以前と以降で人間の生活はどう変わったか）</p> <p>第7回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは）</p> <p>第8回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは）</p> <p>第9回：人類諸社会の婚姻体系と家族（家族とは）</p> <p>第10回：現代日本の家族（日本の家族はどう変わったか）</p> <p>第11回：現代日本の家族（日本の家族はどこへ行く）</p> <p>第12回：伝統社会と現代日本における高齢者（高齢者は尊敬の対象）</p> <p>第13回：医療と文化（病と疾病の違い）</p> <p>第14回：医療と文化（医療は社会・文化的行動）</p> <p>第15回：医療と文化（医療は社会・文化的行動）</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%の結果で評価する。ただし、受講態度（出席、質問等）を加点要素とします。定期試験の成績しだいでは、授業中作成したノートの提出を求めることがある。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	使用しない。
参考図書	授業中、随時知らせます。
事前・ 事後学修	講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも 30 分はかけてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	生態学
科目責任者	記野 秀人
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP (2) 保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	近年マスメディアを賑わす環境問題を正しく理解するためには、われわれ人間を含めた生物と環境の関わりを知ることが重要である。その基礎として生物集団のレベル毎の法則性を中心とする一般的な生態学を学習する。次いで個々の環境問題について生態学的視点から問題の本質を探求する。
到達目標	1. 生物と環境の関わりから生物社会の仕組みを理解する。 2. 身の回りの環境を見直し、問題意識を持って自然に接することができるようになる。 3. 自然環境と生物との関係のあり方、さらには人間生活との関わりについて考える。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生態学とは（ガイダンス）：環境と生物</p> <p>第2回：環境要因と生物：生物の生活</p> <p>第3回：生物の個体群：個体群の特性と各パラメーター</p> <p>第4回：生物群集1：種間関係（共生・寄生・捕食）</p> <p>第5回：生物群集2：種間競争・生態学的地位</p> <p>第6回：生態系1：生態系の構造と食物連鎖</p> <p>第7回：生態系2：植生遷移、生物の地理的分布</p> <p>第8回：生態系3：物質循環、生物濃縮、生態系のサービス</p> <p>第9回：生物多様性と種の保全（絶滅）</p> <p>第10回：外来種問題と外来生物法</p> <p>第11回：環境汚染と破壊：諫早湾の干拓と干潟の役割</p> <p>第12回：地球温暖化1：地球温暖化とは何か</p> <p>第13回：地球温暖化2：地球温暖化に関わる問題点</p> <p>第14回：環境教育の問題点：善意の環境破壊</p> <p>第15回：二次的自然：里山の生態学</p>

アクティブ ラーニング	レポート発表会:与えられた課題の中から選択したテーマについてまとめてきたレポートを全員の前で発表し、質疑応答を行う。
評価方法	筆記試験 90%、レポート 10%とし、授業態度やリアクションペーパーなどを加味して総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーでの疑問・質問へのコメント、レポートの返却
指定図書	なし
参考図書	生態学入門 第2版 日本生態学会編 東京化学同人(2012)
事前・ 事後学修	事前学修は特に必要ないが、シラバスに書かれた各講義内容に含まれる語句について調べておけば授業の理解度が上がる。事後学修としては、配付資料を基にそれぞれの講義のポイントを整理する。設問がある場合にはその解答を復習する。新聞・テレビなどで目にする環境問題を気に留めておいて欲しい。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	生物学																																
科目責任者	熊澤 武志																																
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春																																
科目の位置付	DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																																
科目概要	私達の営みは全てが生命活動によって行われ、巧妙なメカニズムでコントロールされています。この生命活動の基礎について学ぶのが生物学です。この授業ではヒトに関連する生物学を中心に、生命に関する知識と関心を深めることを目的とします。授業の前半(第1回～第7回)は、生物学の基本的な知識について講義を行います。後半(第9回～15回)は基礎から専門へとつながる発展的な知識を、それぞれの分野の専門教員がオムニバス形式でわかりやすく解説します。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞のはたらきについて説明できる。 2. 遺伝子のしくみとはたらきについて説明できる。 3. 生命活動を調節するしくみについて説明できる。 4. 生体防御のしくみについて説明できる。 5. 生命活動とエネルギーについて説明できる。 6. 生命活動と感覚のしくみについて説明できる。 7. 血液のはたらきについて説明できる。 8. ヒトの誕生のしくみについて説明できる。 9. 生命科学に対する関心を深め、問題意識を高めることができる。 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th> <th><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：生命とは何か</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第2回：細胞－生命の基本単位</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第3回：遺伝子－生命の設計図</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第4回：生命活動を支えるしくみ</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第5回：生命活動を調節するしくみ～神経</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第6回：生命活動を調節するしくみ～ホルモン</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第7回：生命を守るしくみ</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第8回：中間のまとめとテスト</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第9回：生物と放射線</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第10回：運動とエネルギーのしくみ</td> <td>安田 智洋</td> </tr> <tr> <td>第11回：感覚のしくみ</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第12回：血液のしくみ</td> <td>森 一恵</td> </tr> <tr> <td>第13回：性周期と誕生のしくみ</td> <td>久保田 君枝</td> </tr> <tr> <td>第14回：生物と生命の倫理</td> <td>長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第15回：生物学の先端テクノロジー</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> </tbody> </table> <p>本科目は高校で生物基礎を履修しなかった学生、生物の勉強が苦手だった学生を履修対象とします。</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：生命とは何か	熊澤 武志	第2回：細胞－生命の基本単位	熊澤 武志	第3回：遺伝子－生命の設計図	熊澤 武志	第4回：生命活動を支えるしくみ	熊澤 武志	第5回：生命活動を調節するしくみ～神経	熊澤 武志	第6回：生命活動を調節するしくみ～ホルモン	熊澤 武志	第7回：生命を守るしくみ	熊澤 武志	第8回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志	第9回：生物と放射線	熊澤 武志	第10回：運動とエネルギーのしくみ	安田 智洋	第11回：感覚のしくみ	熊澤 武志	第12回：血液のしくみ	森 一恵	第13回：性周期と誕生のしくみ	久保田 君枝	第14回：生物と生命の倫理	長谷川 智華	第15回：生物学の先端テクノロジー	熊澤 武志
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																
第1回：生命とは何か	熊澤 武志																																
第2回：細胞－生命の基本単位	熊澤 武志																																
第3回：遺伝子－生命の設計図	熊澤 武志																																
第4回：生命活動を支えるしくみ	熊澤 武志																																
第5回：生命活動を調節するしくみ～神経	熊澤 武志																																
第6回：生命活動を調節するしくみ～ホルモン	熊澤 武志																																
第7回：生命を守るしくみ	熊澤 武志																																
第8回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志																																
第9回：生物と放射線	熊澤 武志																																
第10回：運動とエネルギーのしくみ	安田 智洋																																
第11回：感覚のしくみ	熊澤 武志																																
第12回：血液のしくみ	森 一恵																																
第13回：性周期と誕生のしくみ	久保田 君枝																																
第14回：生物と生命の倫理	長谷川 智華																																
第15回：生物学の先端テクノロジー	熊澤 武志																																

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリアクションペーパーの作成などに取り組んでもらいます。また、一部の授業はMoodleを活用しながら進めます。
評価方法	中間テスト（40%）、定期試験（40%）、平常点（20%）を総合的に評価します。平常点には小テスト、レポート、リアクションペーパー、授業への取り組みなどが含まれます。
課題に対する フィード バック	小テストやレポートなどは、採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、Moodle上あるいは次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	まるわかり基礎生物、小林直人監 修/小林秀明 著、南山堂
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オフィス アワー	講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。

アクティブ ラーニング	3 学部合同のグループ討議活動である。
評価方法	最終レポート 50%、授業態度・参加状況 50%。 また、小グループごとの中間レポート提出を必須とする。
課題に対する フィード バック	ディスカッションやグループ発表時に、担当教員からのコメントがある。
指定図書	授業時に「受講の手引き」ほか資料を配布する。
参考図書	青木 紀「ケア専門職養成の研究」赤石書院
事前・ 事後学修	1. 授業前に配布する当科目の連絡事項をよく読み、各自、事前ワークシートを 40 分程度かけて 記載する(第 1 日目の授業時に持参する)。 2. 授業後は、配布資料等を見直し、40 分程度かけて最終レポートを作成する。
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスア ワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (yukari-n@seirei.ac.jp)

科目名	専門職連携演習
科目責任者	大原 重洋
単位数他	1単位 (30 時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	看：DP(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。 社・リ：DP(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。
科目概要	これまでの学習や経験を再認識し活用して、他学部学生とともに事例検討を行い、対人援助における専門職連携・協働の実際を体験し、その意義と実践方法について理解を深める。
到達目標	1. これまでの体験(講義・演習・実習など)から、専門職連携・協働における各自の役割やその必要性、重要性を自分の言葉で語り、他者と共有することができる。 2. グループワークにおいて事例を作成し、対象者の視点から連携・協働における専門職の役割を考えることができる。 3. 各グループの発表を通して、多面的な視点から専門職連携・協働の意義、およびその実践方法について考察をまとめることができる。
授業計画	<p><担当教員></p> <p>看護学部：井上菜穂美、山村江美子、村松美恵、清水隆裕 社会福祉学部：福田俊子、鈴木光男、秋山恵美子、井川淳史 リハビリテーション学部：大原重洋、俵 祐一、中島ともみ、柴本勇</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1・2回(1日目午前)：全体講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・各自の体験(講義・演習・実習など)から専門職連携を考える ・各学部学生(複数名を選出)のプレゼンテーションとディスカッション <p>第3・4回(1日目午後)：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成(3学部混成のグループ：1グループ10名程度) ・各自の授業や実習等の経験についての話し合い <p>第5～7回(2日目午前)：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職連携の事例作成 <p>第8～9回(2日目午後)：中間報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例について中間報告等 <p>第10～12回(3日目)：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例のアセスメントに基づく援助計画(ケアプラン)の検討/発表の準備 <p>第13～15回(4日目)：全体報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイ等による事例・学びの報告 <p>※レポートの作成：「専門職連携・協働の意義、およびその実践について」</p> <p>A4用紙 1800～2000 文字程度</p> <p>[提出期限：2018年9月21日(金)午後5時まで、教務事務センター]</p>

アクティブ ラーニング	グループワークによる演習方式である。
評価方法	授業参加状況 40%、最終レポート 60%
課題に対する フィード バック	各演習グループの活動場面で担当教員が随時行う。
指定図書	「IPW(Interprofessional Work;専門職連携)」、「協働」、「チームアプローチ」をキーワードに文献等にあたることを勧める。
参考図書	
事前・ 事後学修	指定された事前課題を準備する。これまでの学習・実習を振り返り各自の専門職の役割や機能について考えておく。目安時間40分。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3405 研究室 水曜日：8時50分～10時10分 上記以外でもメール（shigehiro-o@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	キャリアデザイン	※看護学部
科目責任者	井上菜穂美	
単位数他	1単位 (15時間) 必修 5セメスター	
科目の位置付	DP(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	看護職としてのキャリア形成に向けて、自分自身についておよび看護職のキャリアコース(進路)について理解を深め、自分の将来像を自分なりに描く。また、社会に出るために必要な基礎的能力を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人としての「社会人基礎力」(マナー、コミュニケーション能力、文章表現力、ストレスコーピング等)を身につけることができる。 3. 看護専門職としての地域社会への貢献を視野に入れた、自身のキャリアデザインを描くことができる 	
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：看護職の社会的役割と責任について考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャリア/キャリアデザイン 2) 看護職のキャリアコースについて 3) 「社会人基礎力」と「臨床実践能力」 <p>第2回：「社会人基礎力」を身につける (1) リーダーシップとチームワーク</p> <p>第3回：「社会人基礎力」を身につける (2) マナーとしての文章表現 ※課題レポート①「指定図書(該当ページは授業内で提示)の感想文を就職希望先の看護部長に提出する」(添え状とレポートを合わせて提出する)</p> <p>第4回：「社会人基礎力」を身につける (3) マナーとコミュニケーション力</p> <p>第5-6回：自分のキャリアデザインを考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 先輩看護職者の人生設計や体験談を聞く 2) より具体的に、看護専門職としての自分の将来像を考える <p>※課題レポート②「今の自分が考える看護専門職としてのキャリアについて」</p> <p>第7回：ストレスに対する対処法・解消法を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) メンタルヘルスについて 2) ストレスコーピング 3) 身近な課題(実習や就職活動、国家試験への不安等)についてのディスカッション <p>第8回：まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ディスカッション内容の共有 2) 自分の将来像と行動計画の明確化 <p>※課題レポート③「自分のキャリアを形成するために取り組むべき課題、準備」</p>	<p style="text-align: center;"><担当教員名></p> <p>井上菜穂美</p> <p>榎原理恵</p> <p>藤浪千種</p> <p>特別講師</p> <p>特別講師</p> <p>井上菜穂美・榎原理恵・藤浪千種</p> <p>井上菜穂美・榎原理恵・藤浪千種</p>

アクティブ ラーニング	授業計画に沿って課題を提示します。提示された事前課題に主体的に取り組み、授業に参加してください。リアクションペーパーの質問や意見には、授業時に回答、または moodle で返答します。
評価方法	授業への取り組み状況・態度 20%、課題レポート・提出物 80% 課題レポートはルーブリックを用いて評価します（ルーブリックの内容は別紙配布します）
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーの質問や意見へのフィードバックは、次回以降の授業時に回答、または moodle で返答、共有します。
指定図書	・勝原由美子『看護師のキャリア論』（2007）ライフサポート社 ・「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック-先輩の声-」 本学就職センター作成資料
参考図書	授業中に随時連絡します。
事前・ 事後学修	【事前学修】 ・履修前に、自分なりのキャリアデザイン（自分の人生において、看護師・保健師・助産師の資格をどのように生かそうと考えているのか）を考えて参加する。 ・各授業の最後に提示する、次回授業までの課題を行う。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、わからなかったこと、知りたいと思ったことを調べる。 1 コマあたりの時間の目安は事前学習 20 分、事後学習 20 分です。
オフィスア ワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 井上菜穂美（1208 研究室：nahomi-i@seirei.ac.jp） 檜原理恵（1616 研究室：rie-k@seirei.ac.jp） 藤浪千種（1210 研究室：chigusa-f@seirei.ac.jp）

科目名	キャリアデザイン	※社会福祉学部																		
科目責任者	横尾 恵美子																			
単位数他	1単位 (15時間) 必修 5～6セメスター																			
科目の位置付	DP(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。																			
科目概要	<p>大学で「学ぶ」として社会で「働く」としての意義と関係性を理解し、社会福祉専門職としてのどのように社会実践を行い、自分の人生を創造していくのかを考えます。</p> <p>就職活動に必要な知識、技術並びに心構えの基礎について学び、社会人として求められる基礎力を身に着けます。</p> <p>生涯学び続けることの重要性を理解し、実践研究時における研究倫理の遵守は専門職者としての社会的責任であることを学びます。</p>																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力表現力などを身につける。 3. 社会福祉専門職者としての自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。 																			
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：社会福祉職の社会的役割とキャリアデザインについて考える 研究倫理の遵守について</td> <td style="text-align: right;">横尾恵美子</td> </tr> <tr> <td>第2回：使命と責任 ①</td> <td style="text-align: right;">太田雅子</td> </tr> <tr> <td>第3回 使命と責任 ②</td> <td style="text-align: right;">太田雅子</td> </tr> <tr> <td>第4回：社会人としての基礎力を身に着ける① 社会人としてのマナーとは何かを考える</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第5回：社会人としての基礎力を身に着ける② コミュニケーションスキルを習得する</td> <td style="text-align: right;">佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第6回：社会人としての基礎力を身に着ける③ マナーとしての文章表現（敬語・Eメール・手紙）</td> <td style="text-align: right;">渡辺泰宏</td> </tr> <tr> <td>第7回：社会人としての基礎力を身に着ける④ ストレスに対する対処法・解決法を学ぶ</td> <td style="text-align: right;">古川 和稔</td> </tr> <tr> <td>第8回：自分のキャリアデザインを考える</td> <td style="text-align: right;">古川 和稔</td> </tr> </tbody> </table>		＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第1回：社会福祉職の社会的役割とキャリアデザインについて考える 研究倫理の遵守について	横尾恵美子	第2回：使命と責任 ①	太田雅子	第3回 使命と責任 ②	太田雅子	第4回：社会人としての基礎力を身に着ける① 社会人としてのマナーとは何かを考える	佐藤順子	第5回：社会人としての基礎力を身に着ける② コミュニケーションスキルを習得する	佐藤順子	第6回：社会人としての基礎力を身に着ける③ マナーとしての文章表現（敬語・Eメール・手紙）	渡辺泰宏	第7回：社会人としての基礎力を身に着ける④ ストレスに対する対処法・解決法を学ぶ	古川 和稔	第8回：自分のキャリアデザインを考える	古川 和稔
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																			
第1回：社会福祉職の社会的役割とキャリアデザインについて考える 研究倫理の遵守について	横尾恵美子																			
第2回：使命と責任 ①	太田雅子																			
第3回 使命と責任 ②	太田雅子																			
第4回：社会人としての基礎力を身に着ける① 社会人としてのマナーとは何かを考える	佐藤順子																			
第5回：社会人としての基礎力を身に着ける② コミュニケーションスキルを習得する	佐藤順子																			
第6回：社会人としての基礎力を身に着ける③ マナーとしての文章表現（敬語・Eメール・手紙）	渡辺泰宏																			
第7回：社会人としての基礎力を身に着ける④ ストレスに対する対処法・解決法を学ぶ	古川 和稔																			
第8回：自分のキャリアデザインを考える	古川 和稔																			

アクティブ ラーニング	グループで考えたり、作業をしたりする授業展開を行う
評価方法	授業態度 20%、課題レポート・提出物等 80%
課題に対する フィード バック	課題については授業内にて指導を行う
指定図書	特になし
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	事前学修：次回の授業テーマをその都度、出しますので、そのテーマについて調べてください。 事後学修：授業内容について復習をするとともに、授業の理解度を自己評価してください。 目安時間 40 分。
オフィス アワー	初回授業時に提示します

科目名	キャリアデザイン	※リハビリテーション学部
科目責任者	谷 哲夫	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター	
科目の位置付	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。	
科目概要	保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することが態度と志向性を身につけなければならない。本講義は、卒業後の就職と人生設計に向け、またリハビリテーション専門職者としてどのように社会活躍し、人生を創造していくかを考えます。リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を再確認するとともに、キャリアデザインの重要性を理解し、「社会人基礎力」を身につけ、リハビリテーション専門職者としての具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描く志向性を身につけることを目標とします。	
到達目標	1) リハビリテーション専門職者の社会的役割や位置づけ、課題を確認する 2) 自己分析、就職先分析により具体的な人生設計を考えられるようになる 3) キャリアサロンの開催により、学生の職業意識を高めるとともに具体的な進路選択と将来のキャリアビジョンを描けるようになる。	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>1 日目 第 1 回「社会人基礎力」1：社会人としてのマナーを身につける（日常生活にて、挨拶や身だしなみ、礼儀作法を意識した生活を心がける） 谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>第 2 回「社会人基礎力」2：コミュニケーションスキルを習得する（就職試験における面接技能を中心にコミュニケーションスキルをチェックする。事前に面接練習をして授業に参加する） 谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>2 日目 第 3 回「社会人基礎力」3：文書技能を高める（エントリーシートの書き方を中心に文章作成の技能を高める。授業前に各自のエントリーシートを作成して授業に参加する） 谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>第 4 回「社会人基礎力」4：メンタルヘルス（健康的な生活には、性格やストレス特性を理解し、対応方法を学ぶことが必要である。授業では、メンタルヘルスの基礎知識を学ぶ。） 谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>3 日目 第 5 回「自己分析」を行い、自分の性格特性を客観的に評価し、就職活動に結びつける。 谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>4 日目 第 6～8 回「キャリアサロン」を開催する。卒業生を含めた小グループを構成し、グループの中で卒業生による「キャリアデザイン」のレクチャーや「ソーシャルスキルトレーニング」としてのグループワークを行う。最後に、「キャリアサロン」で得た経験を今後の学生生活や就職活動にどのように生かすのかを文章にしてまとめる。 ゲストスピーカー・谷 哲夫・建木 健・矢部広樹</p> <p>受講生へ ・自分のキャリアを考えることは、自分の一生をどう生きるかということを考えることでもあります。より良い人生を生きていくためにはどうすればよいか？またリハビリテーション専門職者としてのキャリアをどのように磨けば良いか？を考え、その実現のための手がかりを得てください。 ・授業の最後に満足度調査を行います。今回の「キャリアサロン」は、学生の皆さんに就職活動・人生設計を真剣に考える契機となることを願い、初めて企画した授業です。今後の「キャリアサロン」のあり方を検討する材料としたいのでご協力ください。</p>	

アクティブ ラーニング	授業計画を確認し、事前にすべき内容を把握し実践しておくこと。
評価方法	リフレクションペーパーによる授業への取り組み、参加度の評価：30%、レポート提出と評価：70%（レポートを期限内に提出されない場合は、単位修得は認められませんので注意してください）
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーを確認し、フィードバックします。
指定図書	なし（講義時に資料を配布します）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 履修前に各自のキャリアデザインを考えておいてください。授業中にそれぞれのデザインについてディスカッションします。 授業では、上記の授業内容に沿って復習と予習を行ってください。目安時間 40 分。
オフィス アワー	リハビリテーション学部、3406 研究室（谷哲夫）、3511 研究室（建木健）、3512 研究室（矢部広樹）です。時間については初回授業時に提示します。

科目名	ボランティア論
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 春
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	現代社会において、その役割が大きく期待されているボランティアについて、その理念や原則、発展過程、また活動に参加することの意義や目的、現状、近年の議論等について学ぶ。そしてその学びを踏まえてボランティア観を身につけ、ボランティア活動に主体的に参加することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの基礎概念について理解できる 2. ボランティアに参加することの意義、目的について自覚できる 3. ボランティアの活動分野や現状について理解できる 4. ボランティア活動への関心、主体的な参加意欲を高める
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、初回アンケート ボランティアに関する今日的话题</p> <p>第2回：初回アンケート結果報告 グループ討議 「ボランティアらしさとは？」</p> <p>第3回：ボランティアの理念、基本原則</p> <p>第4回：ボランティアの発展過程</p> <p>第5回：グループ討議 「24時間テレビを考える」</p> <p>第6回：ボランティア受け入れ側の考え ゲストスピーカー</p> <p>第7回：現代社会におけるボランティアの意義</p> <p>第8回：ボランティア活動に参加するために—態度とルール— 聖隷クリストファー大学ボランティアセンターの役割と実際</p>

アクティブ ラーニング	グループ討議などを取り入れる
評価方法	授業への参加態度 30%、レポート 70%
課題に対する フィード バック	グループ討議等の結果、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし 毎回の授業で資料配布
参考図書	
事前・ 事後学修	事前学修：新聞やニュースの中で、ボランティアに関する記事・話題を探索し、毎回の授業に 臨む 講義予定表の中で提示した課題について、自主学習をし、理解を深める 事後学修：事後学修課題を提示するので期日までにMoodleに入力する (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。

科目名	ボランティア演習
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	DP(1)建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と高い倫理観と保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけている。
科目概要	「ボランティアとは何か」を理解するために、実際にボランティア活動を体験して、そこから自分の生き方と社会の在り方を考える。 本科目は、学生のボランティア活動を推進させる目的から、ボランティア活動に対して「単位」の認定を行うものであり、認定対象となるボランティア活動とは、無償の社会福祉、社会貢献活動をさす。
到達目標	ボランティア活動を実際に体験し、ボランティア論で学んだ理論を振り返り、自分の活動や他の履修者の活動報告を通して社会と人間について学ぶとともに、生涯に亘るボランティア活動の精神を身につける。
授業計画	<p>【担当教員名】 看護学部：津田聡子 社会福祉学部：和久田佳代 リハビリテーション学部：泉良太</p> <p>【単位認定】 単位認定希望者（30 時間・5 日間以上※1 のボランティア活動に対して認定する）は、単位認定申請書を提出する。その際、自分自身が社会福祉施設、社会福祉協議会、その他の社会福祉活動を行う団体等において既に行ったボランティア活動実績※2 を証明するための「ボランティア活動記録」※3 および「ボランティア活動報告書」を併せて提出する。また、ボランティア活動の内容を「ボランティア活動報告会（毎年 12 月頃に開催する予定）」において報告する。</p> <p>※1 遠方での災害ボランティアに関しては、移動日も活動日に算定可能。 ※2 履修登録以前の実績(本学入学後)であっても、活動実績を証明できれば有効。 ※3 活動の内容、日付、時間等を記載し、主宰者等の証明印をもらうための様式。</p> <p>【履修・ボランティア活動に関するオリエンテーション】 本科目履修者は、「履修に関するオリエンテーション」に参加し、本科目の意義、目的、単位認定の方法・過程について理解、把握する。 特に、「ボランティア論」未履修者およびボランティア未経験者は、オリエンテーション時に説明するボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点などの理解に努めること。 また、ボランティアに関する自主学習や（活動先の情報等の）事前確認など、実際にボランティア活動を行う上で必要となる準備作業を十分に行うこと。</p> <p>【ボランティア保険】 ボランティア活動を行う場合、事前に必ずボランティア保険※4 に加入する。</p> <p>※4 ボランティア保険への加入は、春・秋セメスター当初の指定の期間に学生サービスセンターで手続き可能。この時期に加入できなかった場合は、最寄りの社会福祉協議会にて自費（300 円程度）でボランティア保険に加入する。</p>

アクティブ ラーニング	自らボランティア活動を探し、参加することで、ボランティア活動に対する能動的な学習を行います。
評価方法	ボランティア活動記録および活動報告書の提出、ボランティア活動報告会への参加状況により、単位認定の可否を判断します。
課題に対する フィード バック	ボランティア活動報告会にて口頭でフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	オリエンテーション時に資料を配布します。
事前・ 事後学修	ボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点を理解するために、自主学習や（活動先の情報等の）事前確認などをしてください。目安時間 40 分。
オフィス アワー	所属学部：社会福祉学部 研究室：2709 研究室 在室時は随時対応します。 不在時はメール（kayo-w@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	大学間交流授業
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	<p>大学間交流授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会主催の共同授業です。</p> <p>静岡県西部地域の大学が協力し、統一テーマのもとに授業を行います。参加する大学の講師陣がそれぞれの特徴を生かし、オムニバス形式の講義を展開します。</p> <p>この大学間交流授業を履修し、修得した単位は本学の単位として認定されます。</p> <p>ふじのくに地域・大学コンソーシアムのホームページをご覧ください。</p>
到達目標	—
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>履修希望者は、2018 年度春semester中に教務事務センターから公表する募集要項等を確認してください。</p>

アクティブ ラーニング	—
評価方法	毎回の試験やレポートが課せられます。
課題に対する フィード バック	—
指定図書	なし
参考図書	
事前・ 事後学修	—
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。